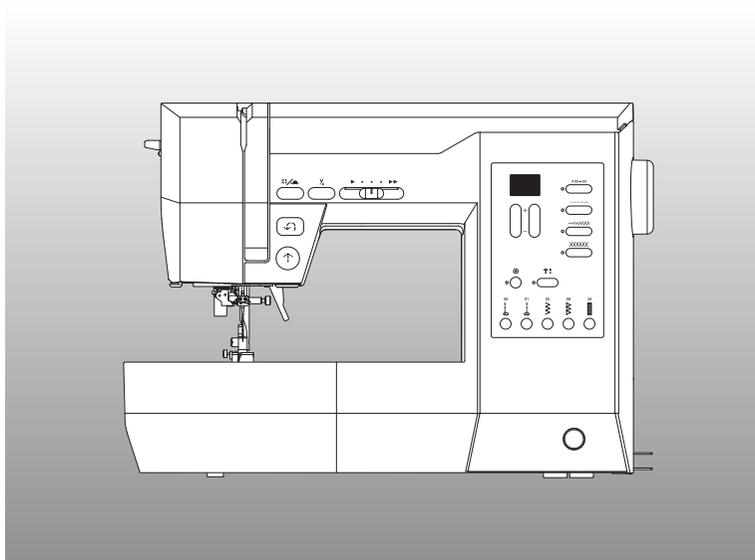


使用の手びき

型式：SSX-500



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用前に必ず
お読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、未長く
ご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。

このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」をお読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただきたいことを説明しています。危害や損害の程度を表す表示の意味と内容は以下のとおりです。

 警告	誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項です。
 注意	誤った取り扱いをすると、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項です。

「使用の手びき」で使用されている図記号の意味は次のとおりです。

 してはいけない内容です	 実行しなければならない内容です	 感電の危険があります
 分解してはいけません	 電源プラグを抜いてください	 火災の危険があります
 水に濡らしてはいけません	 気をつけていただく内容です	 針の下に指を入れないでください

警告 感電、火災の恐れがあります。	
	1. 一般家庭用交流電源 100 V 以外では使用しないでください。感電・火災の恐れがあります。
	2. 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。感電・火災の恐れがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシンを使用中に停電したとき ・ミシンのお手入れをするとき ・ミシンを移動させるとき ・ミシンが正常に作動しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

注意 感電、火災、ケガなどの原因となります。	
	1. 以下のようなところには置かないでください。故障や火災の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・異常に温度が高くなる場所 ・温度が著しく低くなる場所 ・屋外や直射日光の当たるところ ・油煙や湯気の当たるところ ・湿気やほこりの多いところ
	2. 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンなど温度の高くなるもののそば、火の気のあるもののそばでは使用しないでください。ミシンの内部部品や電源コードの被膜が溶けて、感電・火災の原因となります。
	3. スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。可燃性ガスへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	4. ミシンが傾いたりぐらついたりするような不安定な場所には置かないでください。倒れたり、落下するとケガの原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	5. コンセントや配線器具の定格を超えるようなたこ足配線はしないでください。感電や発熱による火災の原因となります。
	6. 濡れた手で電源プラグの抜き差しはしないでください。感電の原因となります。
	7. 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・差し込みの緩いコンセントは使用しないでください。
	8. 電源プラグを抜くときは電源スイッチを切り、プラグを持って抜いてください。電源コードを持って抜くとコードが傷み、感電・火災・ショートの原因となります。
	9. 電源プラグのほこりは乾いた布で定期的にかき取ってください。プラグにほこりがたまると絶縁不良となり、火災の原因となります。

	<p>10. 電源コードやプラグを破損するようなことはしないでください（傷つける、加工する、加熱する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物をのせる、たばねるなど）。破損したまま使用すると、感電・火災・ショートの原因となります。 電源コードやプラグが破損したときはミシンの使用をやめ、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。</p>
	<p>11. 電源コードは、赤いマーク以上引き出さないでください。断線の恐れがあります。</p>
	<p>12. 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグを抜いてください。通電した状態で放置、保管すると、絶縁劣化・ろう電などにより火災の原因となります。</p>
	<p>13. 袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。誤ってかぶると窒息の恐れがあります。</p>
	<p>14. お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるとき、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。</p>
	<p>15. ミシンを移動するときは、不用意に持ち上げたり、動かしたりしないでください。腰や膝を痛める原因となります。</p>
	<p>16. ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。他の部分を持つと、壊れたりすべて落ちてしまったりして、ケガや故障の原因となります。</p>
	<p>17. ミシンに水をこぼしたり濡らしたりしないでください。感電・火災の原因となります。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。</p>
	<p>18. ミシン本体のすきまに異物を入れたり、ドライバーなどを差し込んだりしないでください。感電・ケガ・故障の原因となります。万一、針などの異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。</p>
	<p>19. 別売り品や交換部品は、必ずシンガー指定のものをお使いください。指定外のものを使用すると、ケガ・故障の原因となります。</p>
	<p>20. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。感電・火災・ケガの原因となります。使用の手びきに記載されている以外の点検、修理、調整、掃除は、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご依頼ください。</p>
	<p>21. 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。ケガ・感電の原因となります。</p>
	<p>22. ミシン操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。</p>
	<p>23. 針や押えを交換するときは電源スイッチを切り、使用の手びきの説明にしたがって確実に固定してください。取り付けを誤るとケガや故障の原因となります。</p>
	<p>24. 上糸や下糸をかけるときは、使用の手びきの手順にしたがって正しく行ってください。糸かけが正しくないと、縫製中に糸がからんで、針が曲がったり折れたりして、ケガの原因となります。</p>
	<p>25. 曲がった針や先がつぶれた針は使用しないでください。針が折れてケガの原因となります。</p>
	<p>26. 糸や針は、使用の手びきにしたがって布地に合ったものをお使いください。デニム地などの厚めの布に細い針を使うと、針が折れてケガの原因となります。</p>

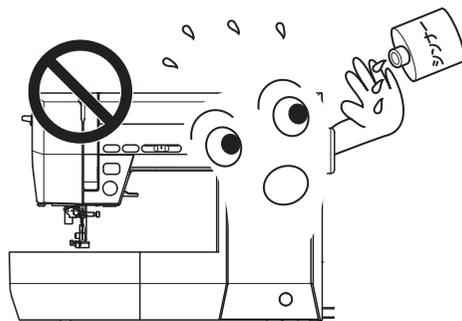
	27. 押えは、使用の手びきにしがって正しい模様や設定でお使いください。誤った模様や設定では、針が押えにぶつかって折れる恐れがあります。
	28. 針の下に指などを入れないでください。ケガをする恐れがあります。
	29. 縫製中に布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。ケガや針折れの原因となります。
	30. シームリッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときにケガをする恐れがあります。
	31. フットコントローラー（別売り品）の上に物をのせないでください。ケガや故障の原因となります。
	32. ミシンやフットコントローラー（別売り品）に以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。そのまま使用すると感電・火災の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・正常に作動しないとき ・落下などにより破損したとき ・水に濡れたとき ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき ・煙が出たり、異常な臭いや音がするとき ・中に異物が入ったとき

- シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を予告なく変更することがあります。
- ミシンをご使用になる方（お子様を含む）が、身体・知覚・精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には、監督者またはミシンを安全に使え、ミシンの危険を理解している人のもとでのみ使用してください。
- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
- 職業用としてご使用になった場合は保証をいたしかねますので、ご了承ください。

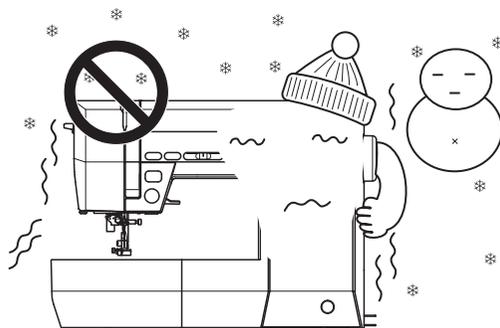
- 「使用の手びき」の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 「使用の手びき」の内容は必要に応じて予告なく変更することがあります。
- 「使用の手びき」の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。

ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



ミシンカバー

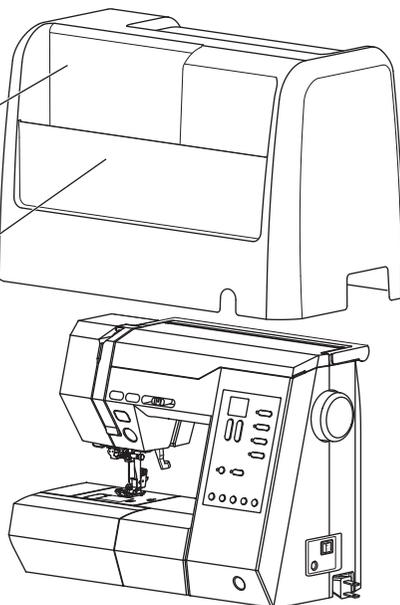
ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。
ミシンカバーのポケットには、この手びきが収納できます。

発泡スチロール（内側）

ポケット

お願い：

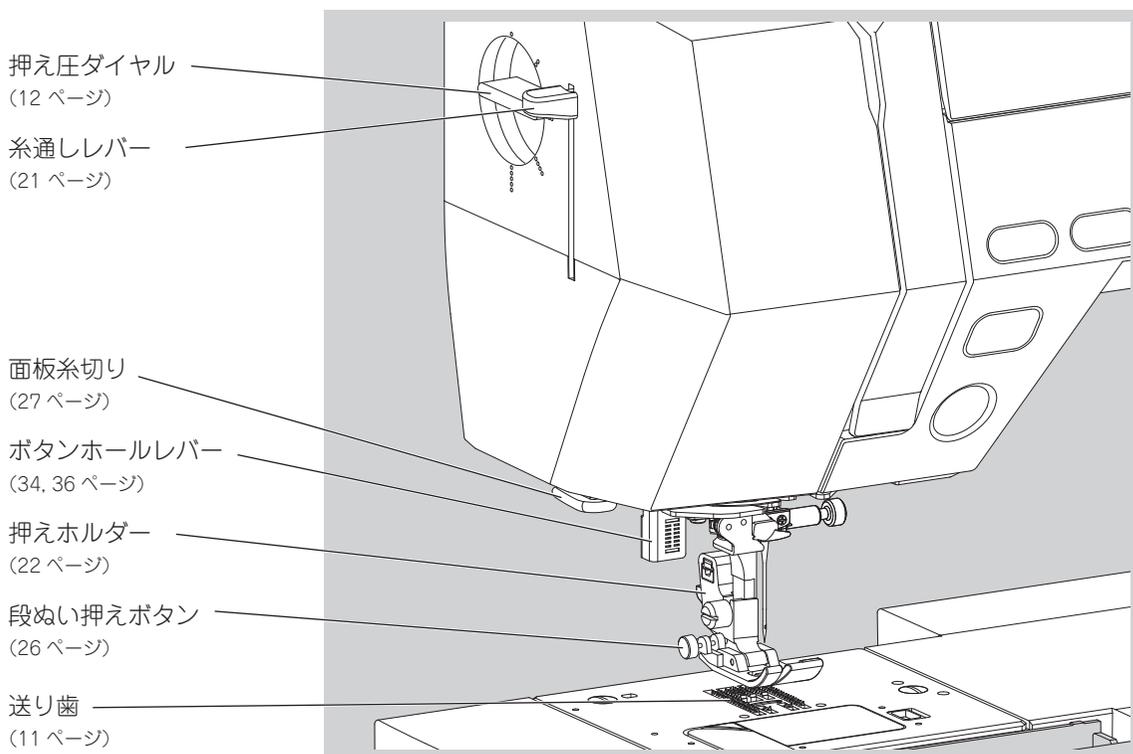
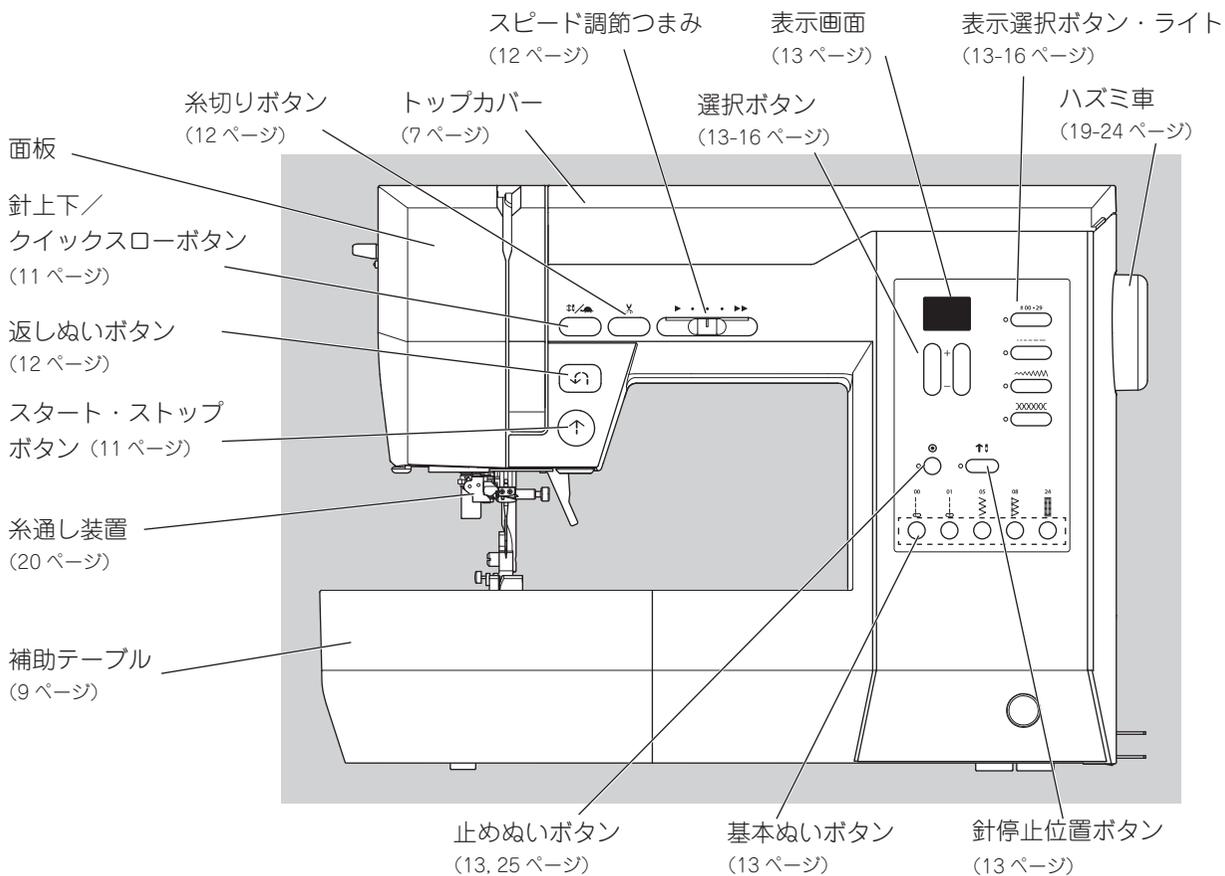
ミシンカバーの内部に貼り付けてある発泡スチロールは、
取り外さないでください。



目次

安全にご使用いただくために.....表紙裏	段ぬい.....27
ミシンの取り扱い.....4	糸切りボタンを使わないとき.....27
ミシンカバー.....4	下糸を長くにとってぬい始めたいとき.....27
各部のなまえ.....6	直線ぬい.....28
付属品・補助テーブル.....9	自動返しぬい付直線ぬい.....28
付属品.....9	伸縮ぬい.....29
補助テーブルの開け方.....9	伸縮強化ぬい.....29
補助テーブルの取り外し方.....9	ジグザグぬい.....30
電源を入れましょう.....10	つくろいぬい（点線ジグザグぬい）.....30
フットコントローラーのご案内（別売り品）.....10	ふちかがりぬい（たち目ががり）.....31
各部のはたらき.....11	まつりぬい（ブラインドステッチ）.....32
スタート・ストップボタン.....11	パッチワーク.....33
お知らせランプ.....11	アップリケ.....33
針上下/クイックスローボタン.....11	ボタンホールぬい.....34
押え上げレバー.....11	かん止め.....36
ドロップフィードレバー.....11	ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）.....37
押え圧ダイヤル.....12	つき合わせ.....37
糸切りボタン.....12	脇あき.....38
スピード調節つまみ.....12	ピンタック.....39
返しぬいボタン.....12	アイレット（はと目穴）.....39
模様の選び方／模様の調整.....13	飾りぬい.....40
表示画面.....13	スカラップステッチ.....40
止めぬいボタン.....13	フリーアームぬい.....41
針停止位置ボタン.....13	大型テーブルのご案内（別売り品）.....41
基本ぬいの選び方（基本ぬいボタン）.....13	キルティング押えのご案内（別売り品）.....42
基本ぬい以外の模様の選び方.....14	キルティング押えの取り付け方.....42
模様一覧.....14	ぬい方（曲線ぬい）.....42
ぬい目長さ.....15	上送り押えのご案内（別売り品）.....43
ふり幅.....15	上送り押えの取り付け方.....43
自動糸調子.....16	ぬい方.....43
下糸の準備.....17	ミシンのお手入れ.....44
ポピンの取り出し方.....17	ミシン表面、ミシンカバーの掃除.....44
下糸の巻き方.....17	ポピンケースの掃除.....44
ポピンのセット.....18	外がまと送り歯の掃除.....45
上糸の準備.....19	LED ライトを消したり、操作音を鳴らなくするには.....46
上糸のかけ方.....19	こんなときには.....47
糸通しの使い方.....20	エラーコード.....48
押えと押えホルダーの取りかえ方.....22	仕様.....48
押えの取りかえ方.....22	修理サービス要領.....49
押えホルダーの外し方.....22	お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）.....49
糸と針の選び方.....23	保証書.....裏表紙
針の取りかえ方.....23	
ぬってみましょう.....24	
ぬい始め～ぬい終わり.....24	
返しぬい.....25	
自動止めぬい.....25	
ぬい方向の変え方.....26	
厚地のぬい始め（段ぬい押えボタンの使い方）.....26	

各部のなまえ



糸通しのガイド
(20 ページ)

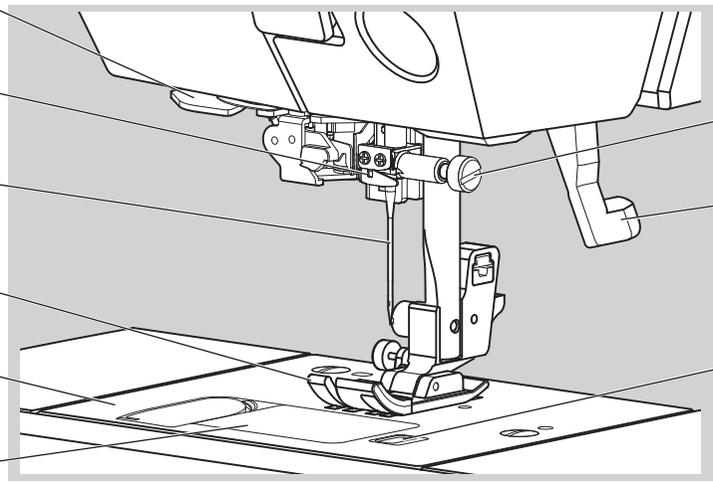
針棒糸かけ
(20 ページ)

針
(23 ページ)

押え
(22 ページ)

針板
(45 ページ)

ポピンカバー
(17 ページ)



針止めネジ
(23 ページ)

押え上げレバー
(11 ページ)

ポピンカバー解放
レバー
(17 ページ)

● トップカバーの開け方
トップカバー右側の指かけに指をかけて、上に引き上げます。

模様一覧
(14 ページ)

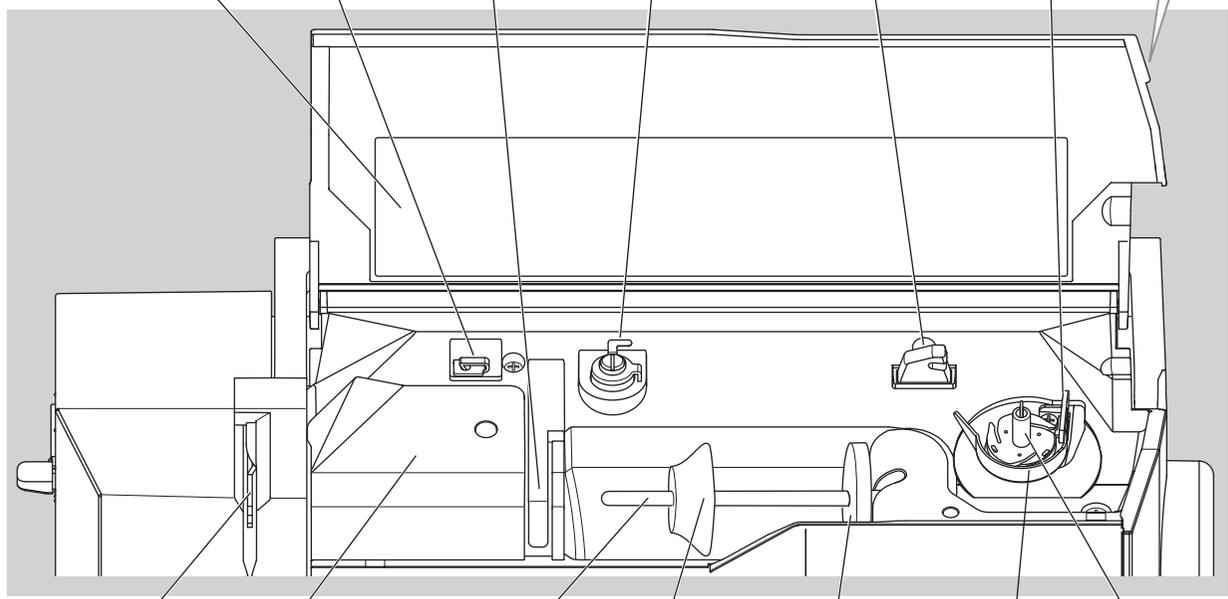
糸かけ
(17 ページ)

糸かけ
(17, 19 ページ)

下糸巻き案内
(17 ページ)

糸巻き糸切り
(18 ページ)

糸巻きストッパー
(18 ページ)



天びん (内部)
(19 ページ)

糸調子調節装置
(内部) (19 ページ)

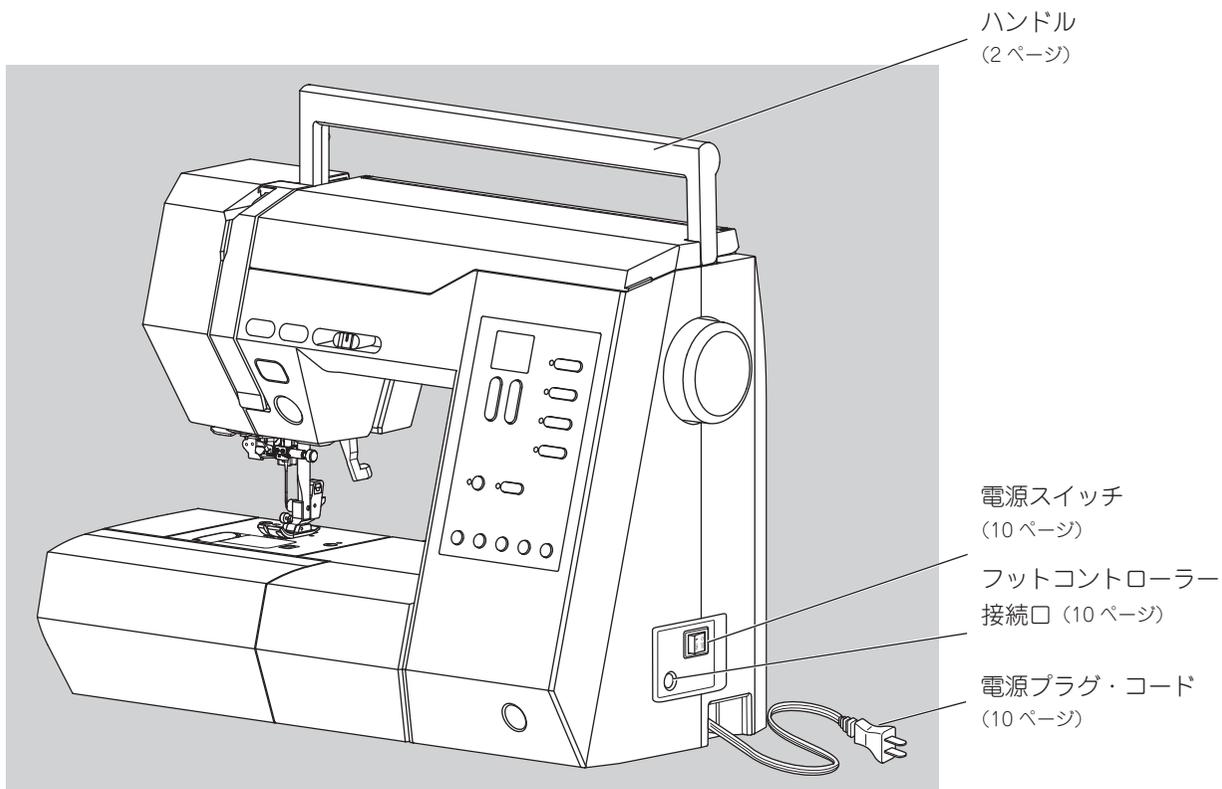
糸立て棒
(17, 19 ページ)

糸巻き押え
(17, 19 ページ)

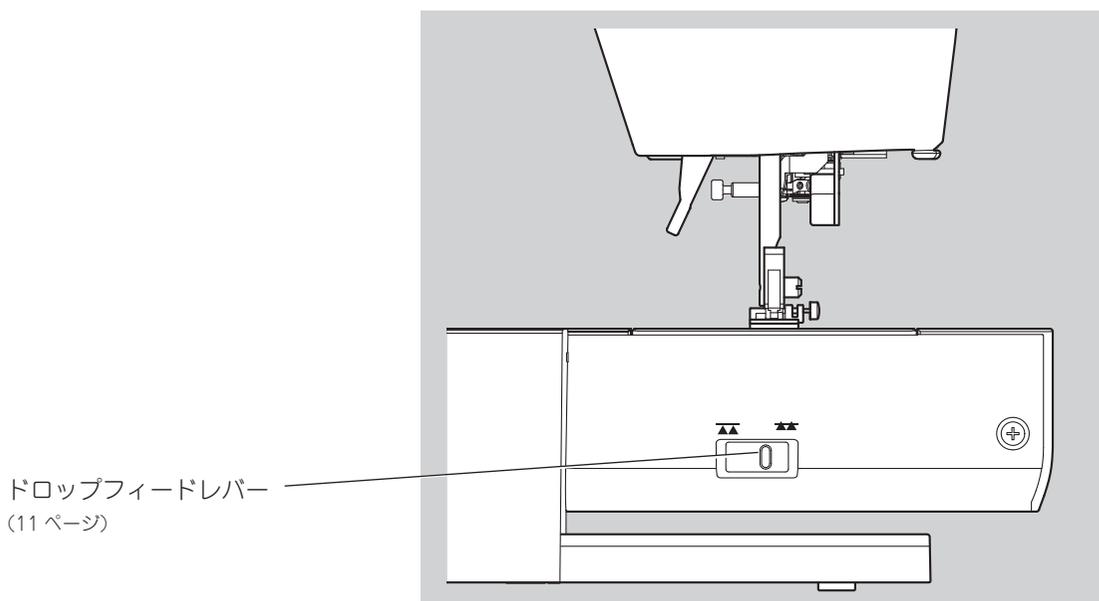
フェルト
(17, 19 ページ)

ポピン受け
(18 ページ)

糸巻き軸
(17 ページ)



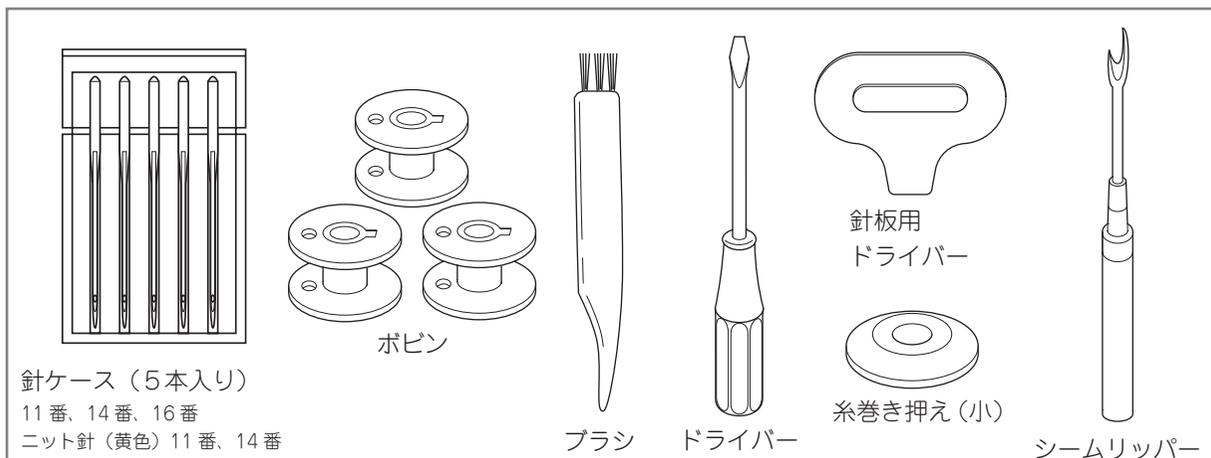
● ミシンの背面



付属品・補助テーブル

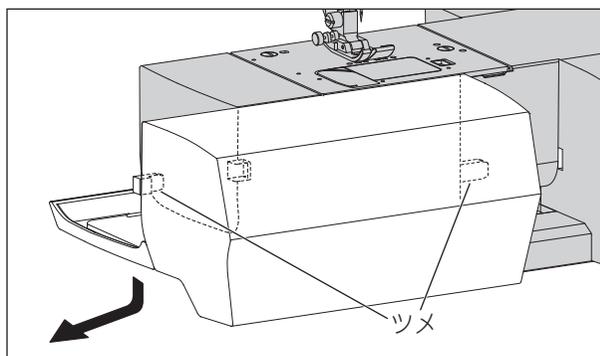
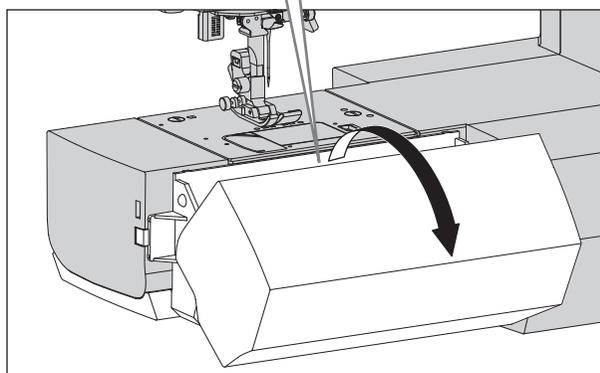
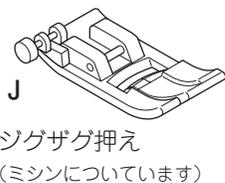
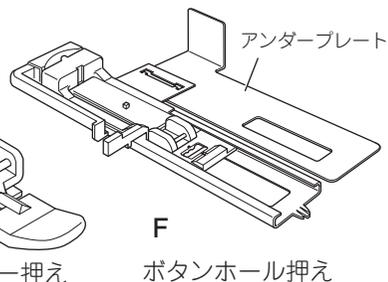
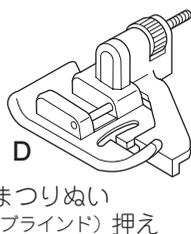
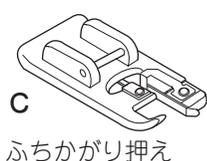
■ 付属品

付属品は補助テーブルの中に入っています。



● 押え

押えには、わかりやすいようにそれぞれ記号がついています。



■ 補助テーブルの開け方

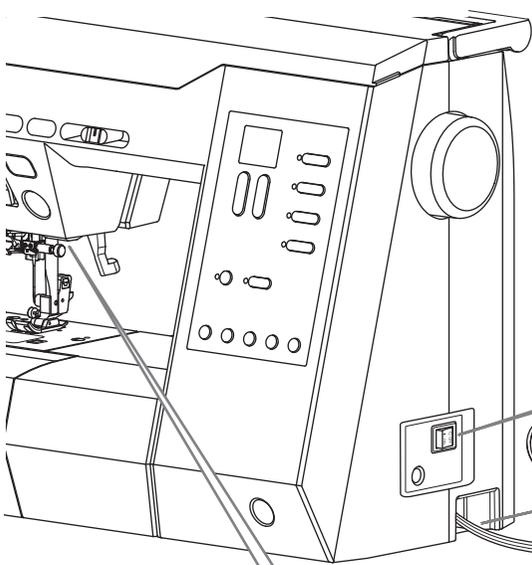
テーブル手前の角に指をかけ、手前に倒します。

■ 補助テーブルの取り外し方

テーブルの左下に指をかけて、左に引きます。
取り付けは、テーブルのツメがミシンに入るように合わせ、右にすべり込ませます。

電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



① 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。



警告：感電、火災を防ぐために；

コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

② 電源スイッチを入れます。



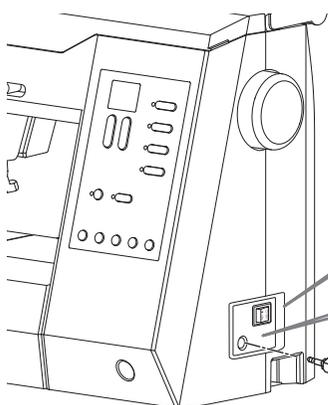
● コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、放してください。

③ 電源を入れると、LED ライトが点灯します。

模様は、自動的に直線ぬい () が選ばれます。

● このミシンは、LED ライトを消したり、操作音を鳴らなくする設定ができます。(46 ページ参照)

フットコントローラーのご案内 (別売り品)



別売りのフットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。

フットコントローラーを接続するとスタート・ストップボタン (11 ページ参照) はきかなくなります。

① 電源スイッチを切ります。



② フットコントローラーのプラグをミシンの接続口に差し込みます。

③ フットコントローラーを足元に置き、電源を入れ直します。ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。

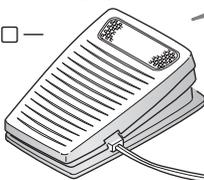
ペダルを放すとストップします。

スピード調節つまみ (12 ページ参照) は、最高スピードを調節します。速くしたいときは、右にセットしてください。

押えを下げないとスタートしません。(11 ページ参照)

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

● フットコントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。



タップ機能

ペダルを半分くらい素早く踏んで放すと、針が上るときは下に、下のときは上に移動させることができます。針の停止位置 (13 ページ参照) は、変わりません。



警告；感電、火災を防ぐために；

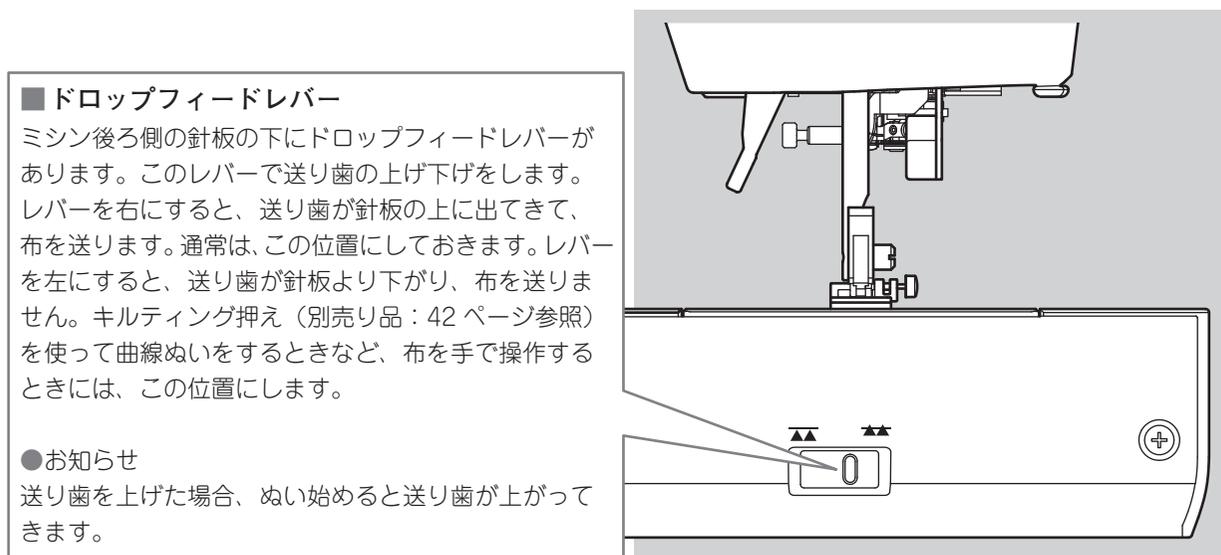
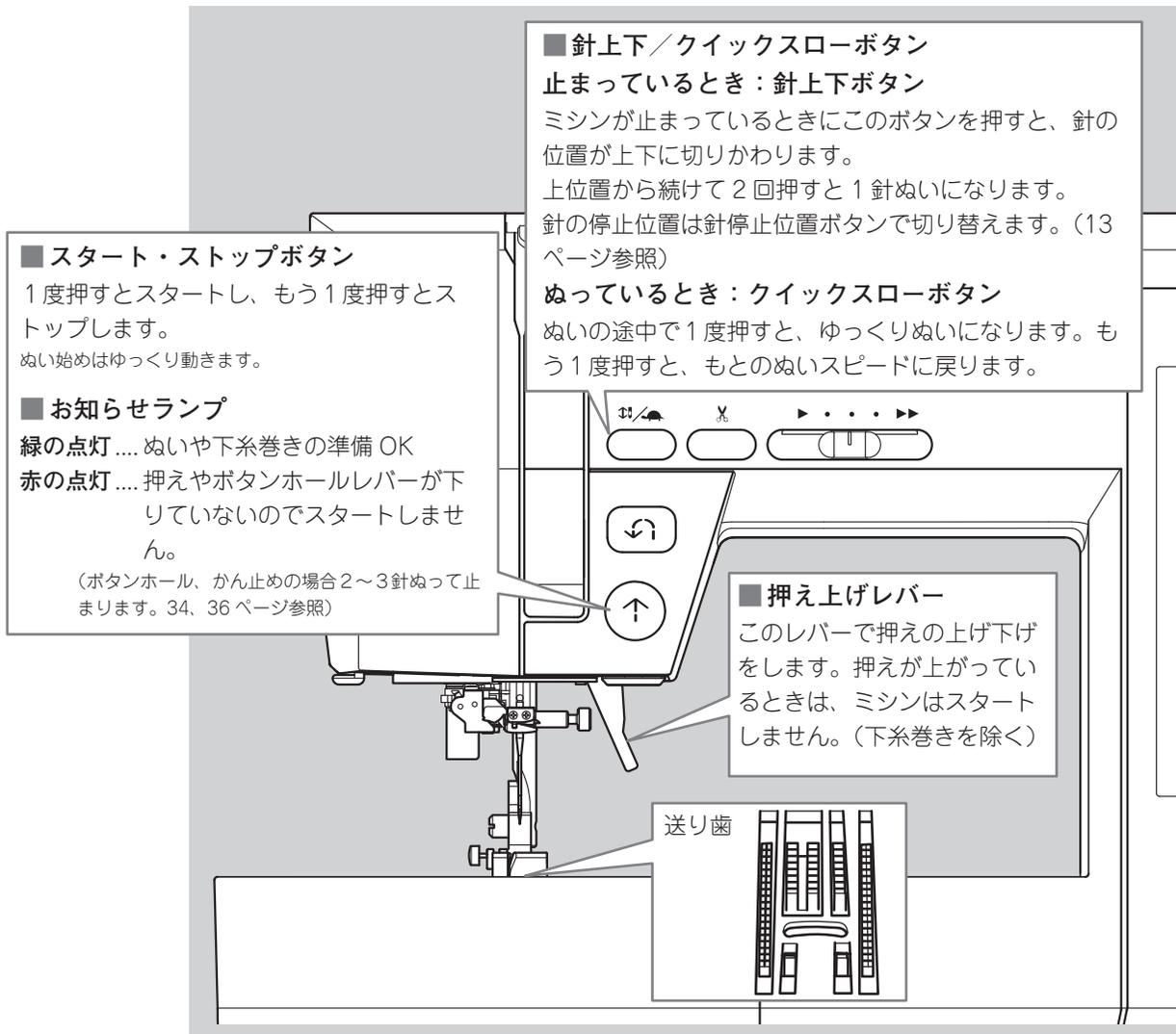
フットコントローラーは、落としたり、座ブトンの下に置いて使用しないでください。



注意；ケガ防止のために；

フットコントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

各部のはたらき



■ 押え圧ダイヤル

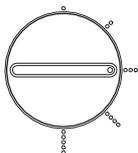
このダイヤルを回して押えの圧力を 5 段階に調節できます。

○: 弱い ○○○: 普通 ○○○○○: 強い

通常は、○○○にしておきます。

ダイヤルは、押えを下げてから回します。

押え圧を変えてぬった後は、○○○に戻しておいてください。



■ 糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタンを押すと、上糸と下糸を同時に切ります。

*番手が 30 番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。これらの糸を切る場合には、ミシン左側の面板糸切りをお使いください。(27 ページ参照)

■ スピード調節つまみ

右にスライドさせると速く、左にスライドさせるとゆっくりになります。

■ 返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。放すと止まります。

- フットコントローラー（別売り品）接続時は、返しぬいボタンを押しているときの条件によって返しぬいの速度が異なります。
フットコントローラーを踏みながら押す : 低速になりません。速度はフットコントローラーで調整してください。
フットコントローラーを放して押す : 低速でぬいます。
- フットコントローラー（別売り品）を踏んでいるときは、返しぬいボタンを放しても止まりません。返しぬいを止めたいときは、フットコントローラーを放してください。
- 速度によっては、返しぬいボタンを押したあと、ぬい目長さの半分の長さをぬい進んでから返しぬいがぬわれます。

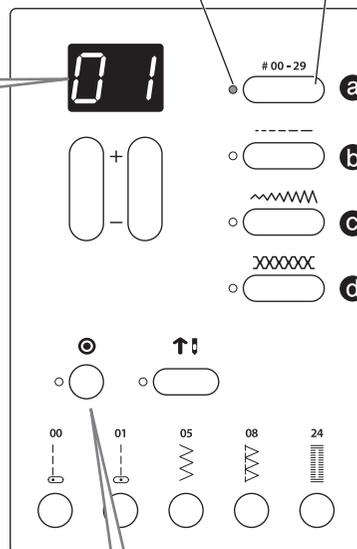
模様の選び方／模様の調整

このミシンでぬえる 30 の模様がトップカバー内側と、14 ページの模様一覧に表示してあります。

模様にはそれぞれ番号がついており、この番号で模様を選びます。

電源を入れたときには、模様 01 () が自動的に選ばれ、表示画面には、模様番号「01」が表示されます。

表示選択ライト 表示選択ボタン



■ 表示画面

表示画面は、右側にある 4 つの表示選択ボタンで表示内容が切りかわります。

表示選択ボタンを押すと、その表示選択ライトが点灯します。

表示選択されたときの表示画面の表示内容

- a** 模様 模様番号が表示されます。
- b** ぬい目長さ 選ばれた模様のぬい目長さが表示されます。
- c** ふり幅 選ばれた模様のふり幅が表示されます。
- d** 糸調子 選ばれた模様の糸調子が表示されます。

ぬい目長さ、ふり幅、糸調子は、模様番号を選んだときにその模様最適な数値に自動設定されますので、変更したい場合は、模様番号を選んだ後に行います。(15、16 ページ参照) また、これらを変更した後は、別の表示に切りかえても記憶されています。

■ 止めぬいボタン

ぬいの始めと終わりに自動で止めぬいをします。

使い方は 25 ページを参照してください。

■ 針停止位置ボタン

ボタンを押すごとに針の停止位置が切り替わります。

ミシンの電源を入れたときの針の停止位置は下です。停止位置を変更したあとミシンの電源を入れ直すと、下に戻ります。

ライトが点灯：針の停止位置は上

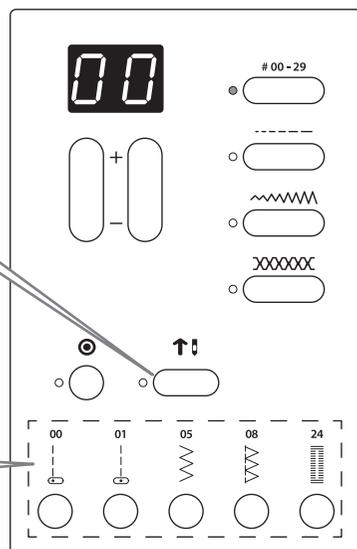
ライトが消灯：針の停止位置は下

■ 基本ぬいの選び方 (基本ぬいボタン)

よく使われるぬい (基本ぬい) を直接選ぶことができます。

ぬいたい模様のボタンを押してください。

模様ライトが点灯し、選んだ模様番号が表示画面に表示されます。



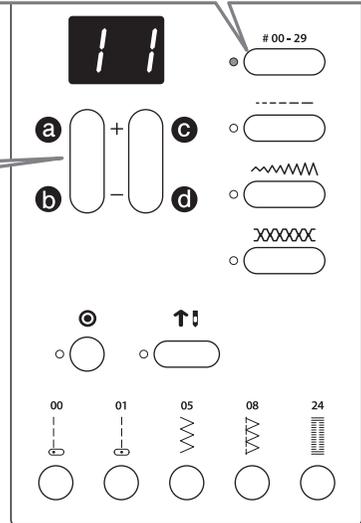
■ 基本ぬい以外の模様の選び方

- ① 模様ボタンを押します。
模様ライトが点灯し、模様番号が表示されます。
すでに模様ライトが点灯しているときは、ボタンを押す必要はありません。

② 選択ボタン (+ / -) で模様番号を選びます。

- a ボタンを押すたびに、10の位の数字が1つ大きくなります。
- b ボタンを押すたびに、10の位の数字が1つ小さくなります。
- c ボタンを押すたびに、1の位の数字が1つ大きくなります。
- d ボタンを押すたびに、1の位の数字が1つ小さくなります。

ぬっている途中で模様番号を変更することはできません。



■ 模様一覧

このミシンでぬえる模様と、模様番号、模様を選んだときに自動設定されるぬい目長さとふり幅の一覧です。
設定を変えたい場合は、15ページを参照してください。

白抜きの番号の模様は基本ぬいの模様です。

ぬい目長さとふり幅の単位は mm です。

設定値の表示がない場合は、ぬい目長さ、ふり幅は変えられません。

直線ぬい (模様 00, 01, 02, 04) は、ふり幅のかわりに、ぬうときの針の位置を左右に変えることができます。(15ページ参照)

模様番号	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
模様															
ぬい目長さ	自動設定値 最小・最大	2.5 0.8-5.0	2.5 0.8-5.0	2.5 1.2-5.0	2.5 1.2-5.0	2.0 0.0-2.5	1.0 0.4-2.0	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6	1.8 0.8-2.5	1.8 0.8-2.5	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6
ふり幅	自動設定値 最小・最大	0.0 0.0-7.0	3.5 0.0-7.0	3.5 0.0-7.0	-- 0.0-7.0	3.5 2.0-6.0	5.0 2.5-7.0	5.0 2.0-6.0	5.5 4.0-7.0	5.5 4.0-7.0	3.0 1.0-7.0	3.0 2.0-6.0	5.0 1.0-7.0	6.0 4.0-7.0	7.0 4.0-7.0

模様番号	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
模様																
ぬい目長さ	自動設定値 最小・最大	2.6 1.4-2.6	-- --	-- --	0.5 0.3-1.0	0.5 0.3-1.0	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6	2.6 1.4-2.6	0.5 0.3-1.0	0.5 0.3-1.0	0.5 0.3-1.0	0.5 0.3-1.0	2.4 2.0-2.6	0.4 0.3-1.0
ふり幅	自動設定値 最小・最大	7.0 4.0-7.0	-- --	7.0 5.0-7.0	6.0 4.0-7.0	7.0 4.0-7.0	7.0 4.0-7.0	7.0 4.0-7.0	7.0 4.0-7.0	7.0 4.0-7.0	5.0 3.5-6.5	5.0 3.5-6.5	5.0 3.5-6.5	5.0 3.5-6.5	5.0 4.0-6.5	2.0 1.0-3.0

● 改良のため、設定値は変わることがあります。

自動糸調子

模様を選んだときに上糸の糸調子は、その模様に合わせて自動設定されます。
糸調子を変えてぬいたいときは、

- 1 糸調子ボタンを押します。
糸調子ライトが点灯し、表示画面に糸調子の数値が表示されます。

- 2 選択ボタン（+ / -）で糸調子を調節します。

「-」ボタン（bまたはd）を押すごとに弱くなります。（最小値：0）

「+」ボタン（aまたはc）を押すごとに強くなります。（最大値：20）

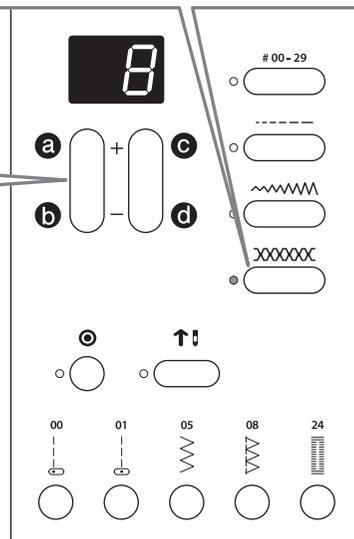
● + / - ボタンは左右どちらのボタンでも同じ操作ができます。

● ぬいながらでも調節することができます。

● 最大値、最小値になるとピピピッと音が鳴ってお知らせします。

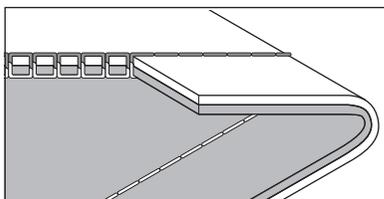
操作音が鳴らないように設定した場合は鳴りません。詳しくは46ページの「LEDライトを消したり、操作音を鳴らなくするには」を参照してください。

● 自動設定値に戻すには、糸調子ボタンをもう一度押します。



自動設定値

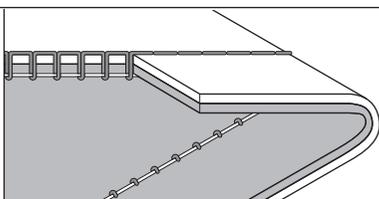
上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。（直線ぬい）



布や糸によっては自動設定値でも中央でまじわらない場合があります。

上糸が弱いぬい目

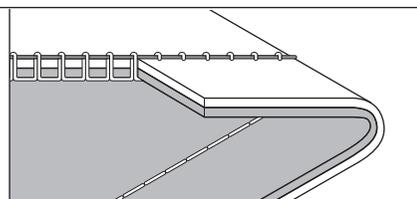
布地の裏側に上糸が出てきます。（最小値：0）



上糸が弱すぎる場合は、「+」ボタンを押します。

上糸が強いぬい目

布地の表側に下糸が出てきます。（最大値：20）



上糸が強すぎる場合は、「-」ボタンを押します。

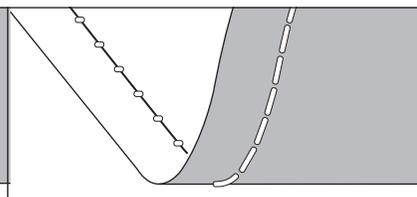
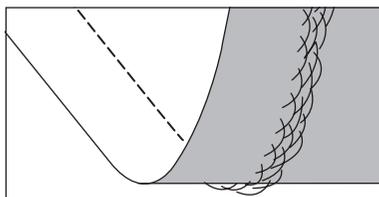
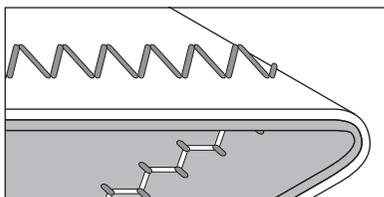
●直線ぬい以外の自動設定値

直線ぬい以外の自動設定値は、直線ぬいするときより糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るように調節されます。

●こんな場合は…

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようにになるときは、上糸のかけ方（とくに、糸調子調節装置への）が間違っています。19ページを参照し、正しくかけてください。

また、糸調子が自動設定値になっているのに、下糸が布地の表側に出るときは、ボビンのセットの仕方が間違っています。18ページを参照し、正しくセットしてください。

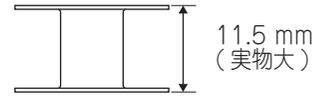


下糸の準備

■ ボビンの取り出し方

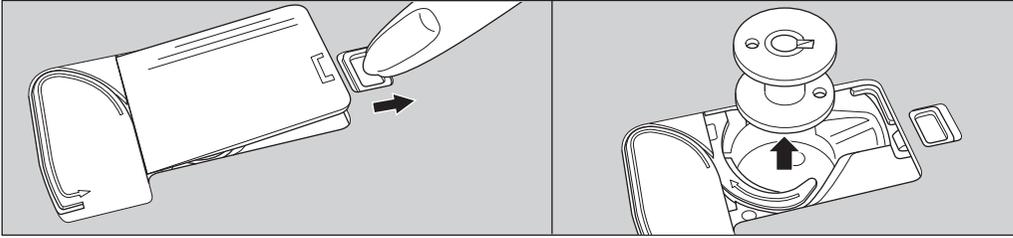
お願い：

ボビンは、専用のプラスチック製のものをお使いください。



① ボビンカバー解放レバーを右に押し、ボビンカバーを取り外します。

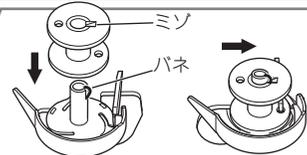
② ボビンを取り出します。



■ 下糸の巻き方

① トップカバーをあけます。

② ボビンのミソが、糸巻き軸のバネに合うように、ボビンを軸に差し込み、右に押しします。



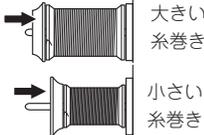
③ 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。



右図のような糸巻きをお使いの場合は、糸巻き押え(小)を取り付けてください。



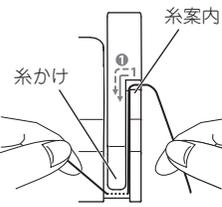
* 必ずフェルトを糸巻きの右にセットしてください。糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



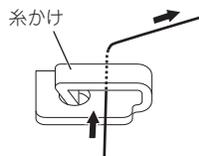
* 通常の糸巻き押えでは、糸がスムーズに出ないときがあります。

● 取り付けは、糸巻きとの間に少しスキマが空くようにして差し込みます。

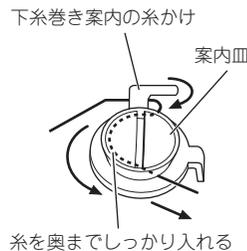
④ 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけ、次の糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。



⑤ 糸を後ろに引き、糸かけの下を左から右にかけます。



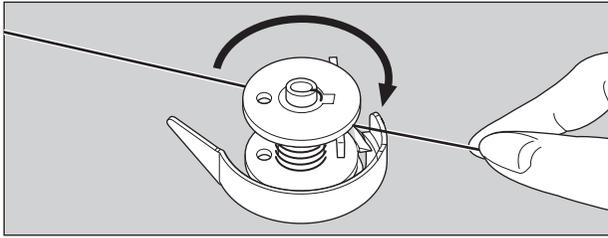
⑥ 下糸巻き案内の糸かけに後ろからかけ、案内皿の下に左回りでかけます。



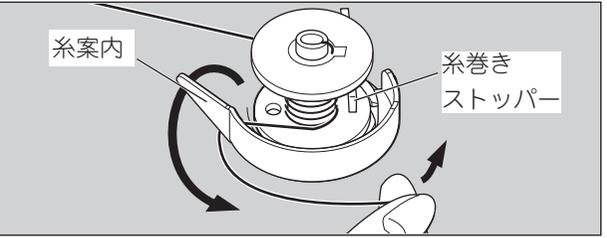
●お知らせ：

糸を案内皿の下にしっかり入れてください。糸が奥までしっかり入っていないと、ボビンにきれいに巻けなかったり、ボビン以外の部位に巻き付いてしまったりする場合があります。

- 7** 糸がたるまないようにしながら、ポビンに右回りに4、5回、巻き付けます。

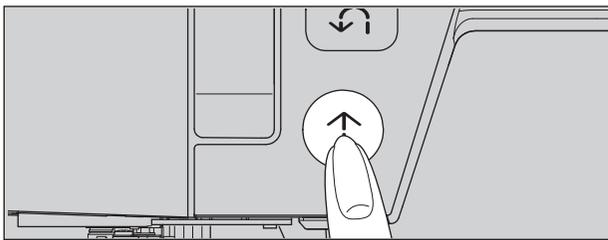


- 8** ポビン受けの糸案内にかけ、左回りに糸を引き、糸切りで切ります。

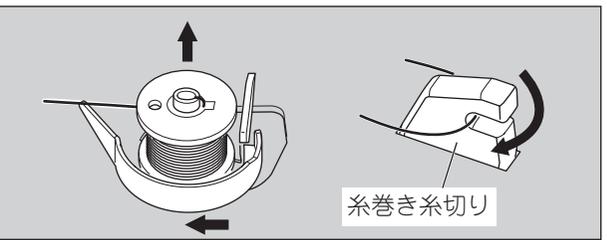


左回りに引くだけで、糸が糸切りにかかり切れます。

- 9** スタートボタンを押します。



- 10** 巻き終わったら、糸巻き軸を左に戻してポビンを外し、糸巻き糸切りで切ります。

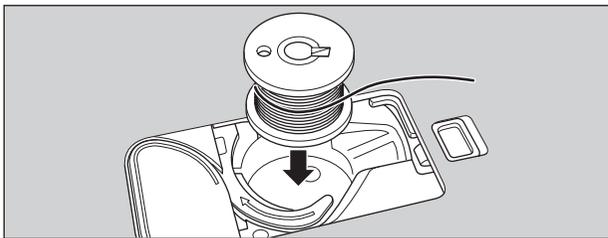


糸がポビンに約80%巻かれると、糸巻きストッパーが押され、自動的に止まります。

糸巻き糸切りのミゾに糸をかけて切ります。

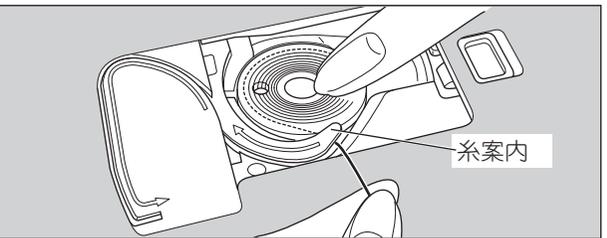
■ ボビンのセット

- 1** ボビンを糸が左回りになるようにして、ポビンケースに入れます。

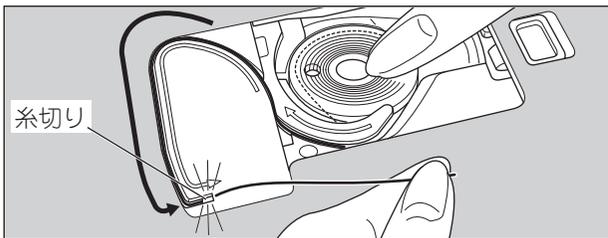


糸の方向を間違えないように注意してください。

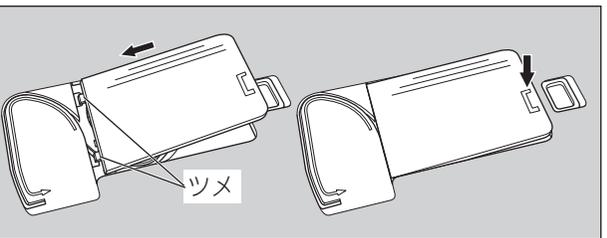
- 2** 右手でポビンを軽く押え、左手で糸を糸案内に引っかけます。



- 3** ミゾに沿って、上から下に通し、右に引いて、糸切りで切ります。



- 4** ポビンカバー左側のツメをミゾに差し込み、右側を軽く押し付けて取り付けます。



●お知らせ：

このミシンは、下糸を引き上げなくても、このままでぬい始めることができます。

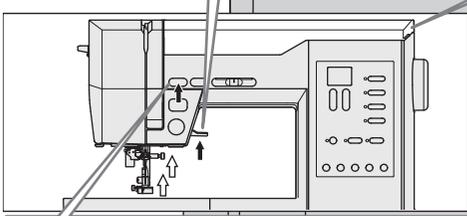
もし、下糸を引き上げてぬいたいときは、27ページの「下糸を長くにとってぬい始めたいとき」を参照してください。

上糸の準備

■ 上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

1 押え上げレバーを上げます。
レバーを上げないと糸調子調節装置に糸がかからず、糸調子がとれません。



2 針上下ボタンで針を上上げます。
針が上るときは、ハズミ車のマークも上にきます。このマークが上がないときは、再度針上下ボタンを押すが、ハズミ車を回して上にしてください。

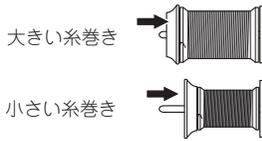


3 トップカバーをあけます。

4 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。

* 必ずフェルトをセットしてください。

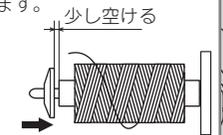
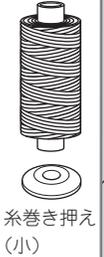
糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



右図のような糸巻きをお使いの場合は、糸巻き押え(小)を取り付けてください。

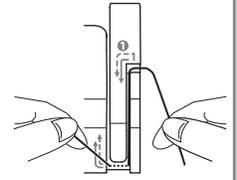
* 通常の糸巻き押えでは、糸切りで糸が切れなかったり、糸調子がうまくとれないときがあります。

● 取り付けは、糸巻きとの間に少しスキマが空くようにして差し込みます。



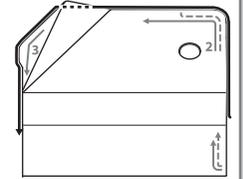
5 ミシンに表示してある1~6の順番で糸をかけます。

1. 糸を両手で持ち、糸案内の後ろから糸をかけ、矢印にそって糸かけの手前からかけ、上に引き上げます。



2. 矢印にそって糸をかけ、左に引いていきます。

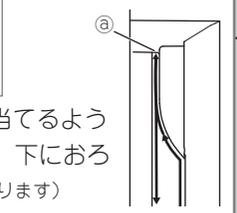
3. 糸を右から左にかけ、矢印にそって手前におろします。(中の糸調子調節装置に糸がかかります)



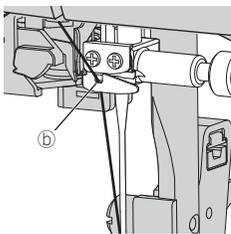
4. 右から左にかけ、上に引き上げます。



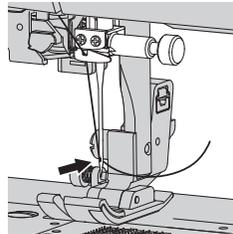
5,6. 矢印にそって、①に糸を当てるように下から上に糸を引き上げ、下におろします。(中の天びんに糸がかかります)



6 針棒系かけに右側からかけます。
針棒系かけの正面に向かって右側から糸を通し、針棒系かけのミノ②に糸をかけます。



7 針穴前から通します。
糸通しを使う場合は、20ページを参照ください。



■糸通しの使い方

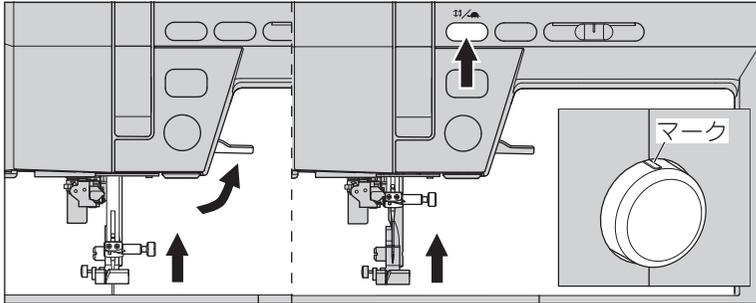
糸通しは、11～16番の針、50～100番の糸に使えます。

⚠注意：ケガ防止のために；

- ・針の下に指を入れないでください。ケガの原因となります。
- ・糸通しレバーを下げたとき、ハズミ車は回さないでください。ケガや故障の原因となります。

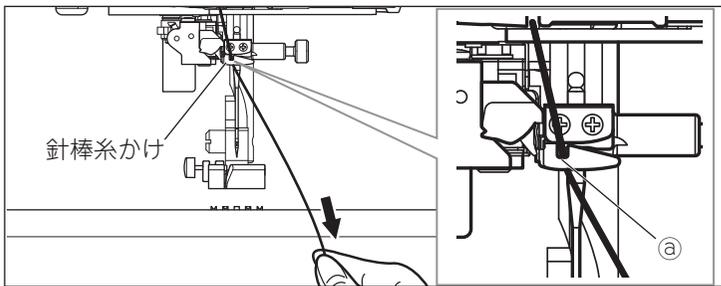
ご注意：透明なナイロン糸など特殊な糸を使用するときは、糸通しは使用できません。

① 押えと針を上げます。

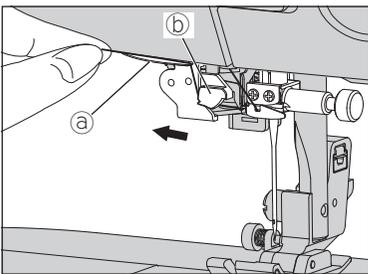


針が下位置にあるときは、針上下ボタンで上に上げます。
針が上位置にあるときは、ハズミ車のマークも上にきます。

② 針棒糸かけに糸を通し、補助テーブルの手前まで引き出します。 正面向かって右側から糸を通し、針棒糸かけのミゾ①に糸をかけます。

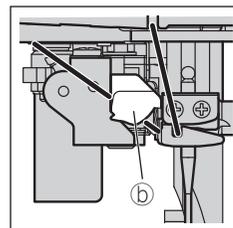


③ 糸を引き上げ、糸通しのガイドにかけます。 針棒糸かけから糸通しのガイド②に右から左へ糸をかけます。 このとき、糸がピンと張るように引っ張ってかけると、糸は自動的に糸保持体③を通ります。



ご注意：

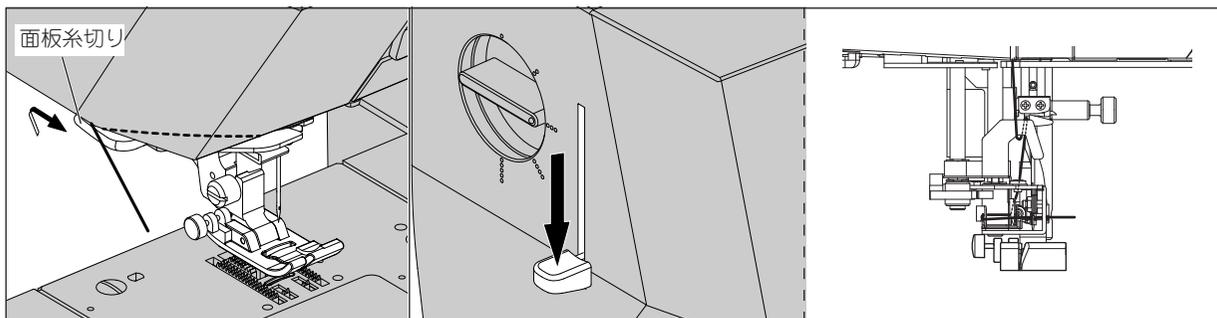
糸が糸保持体③を通っていることを確認してください。糸保持体を通っていないと、糸が針穴に入りません。



4 面板系切りの後ろから手前に糸をかけて切ります。

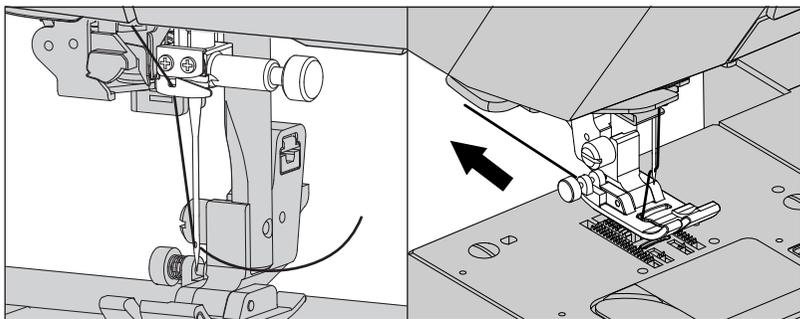
5 糸通しレバーを下げます。糸通しレバーがそれ以上下がらなくなる位置までしっかり下げてください。

糸通しレバーを下げると、糸通しの装置が下がり、自動的に糸通しを行います。



6 糸通しレバーを放します。

7 押えの下に糸を通し、10 cm ほど後ろへ引き出します。



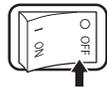
針穴を通った糸が、

輪になっている場合 : 輪を引っ張り、糸端を引き出してください。

糸通しに引っかかって : 引っかかっている糸を糸通しから外し、糸端を引き出してください。

押えと押えホルダーの取りかえ方

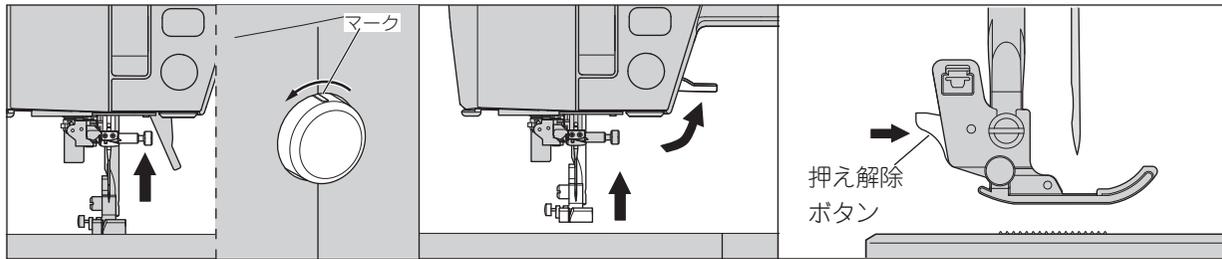
⚠注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



■ 押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが28ページ以降に示してあります。

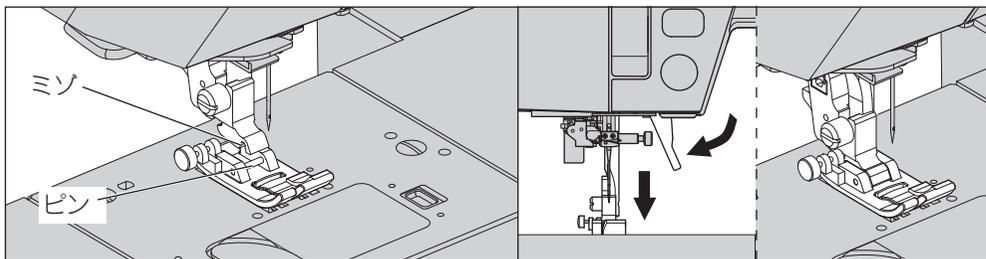
- 1 ハズミ車を手前に回して、針を一番上に上げます。
- 2 押え上げレバーを上げます。
- 3 押え解除ボタンを押します。



ハズミ車のマークが上にきます。

押えが外れます。

- 4 交換する押えのピンを押えホルダーのミソの真下に合わせます。
- 5 押え上げレバーを下げます。



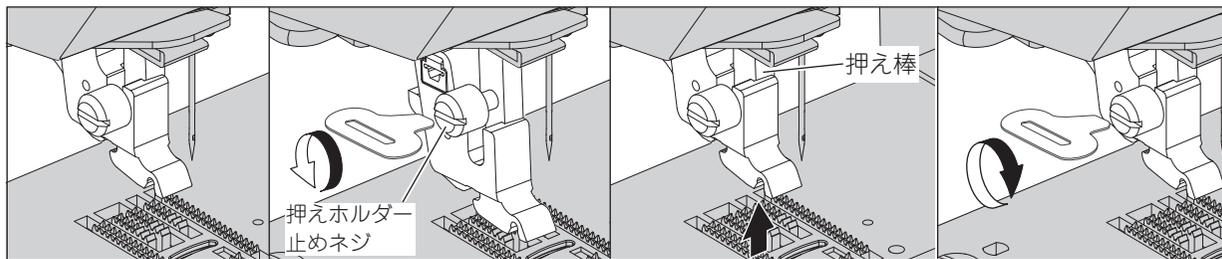
ピンがミソにはまります。

もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■ 押えホルダーの外し方

お手入れをするときや、キルティング押え、上送り押え（別売り品：42、43ページ参照）を取り付けるときは、押えホルダーを外します。

- 1 押えを外します。
- 2 付属の針板用ドライバーで、押えホルダー止めネジをゆるめます。
- 3 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当たるまで持ち上げます。
- 4 付属の針板用ドライバーで、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。



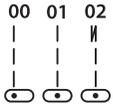
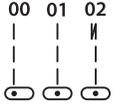
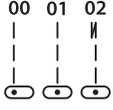
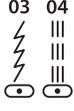
前項「押えの取りかえ方」参照 ホルダーが外れます。

注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけないでください。故障の原因となります。

糸と針の選び方

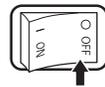
このミシンに付属している以外の針については、市販の家庭用ミシン針 HA × 1、HA × 1SP（ニット用針）をお買い求めください。

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類		糸の番号		針の番号	模様（直線）とぬい目長さ (15 ページ参照)
薄地	薄地ジョーゼット、ポイル、オーガジー、タフタ、絹布など。	綿 80 ~ 100 絹 60 ~ 80 化繊糸 80 ~ 100		9 ~ 11 番	 ぬい目長さ 0.8 ~ 2.5
普通地	ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、薄手のコードロイ、サテン、別珍、一般服地など。	綿 50 ~ 80 絹 50 化繊糸 50 ~ 80		11 ~ 14 番	 ぬい目長さ 2.0 ~ 3.0
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コードロイなど。	綿 30 ~ 50 絹 50 化繊糸 30 ~ 60		14 ~ 16 番	 ぬい目長さ 2.0 ~ 5.0
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸 50 ~ 80 絹 50 ニット用糸		11 ~ 14 番 ニット用針	

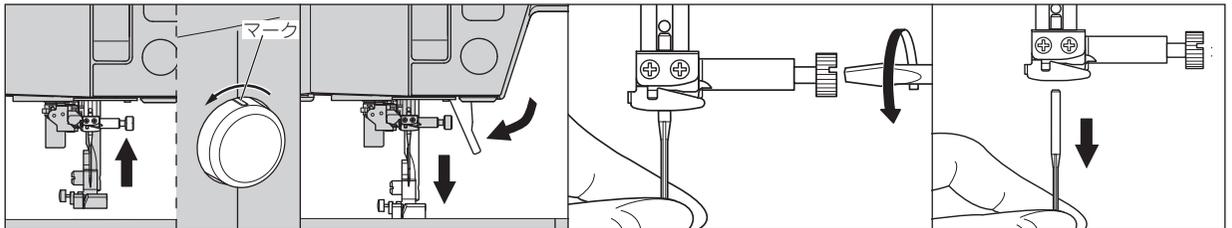
針の取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



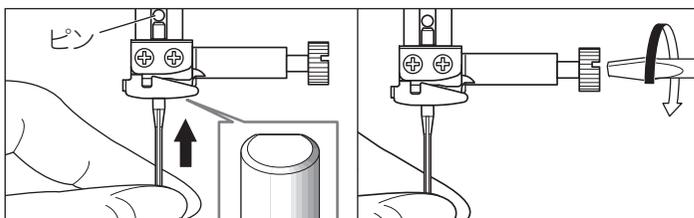
針板の上に紙や布を置いておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

- 1 ハズミ車を手前に回し、針を上上げます。
- 2 押え上げレバーを下げます。
- 3 針を左手で持ちながら、付属のドライバーで針止めネジをゆるめます。
- 4 針を外します。



ハズミ車のマークが上にきます。

- 5 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。
- 6 指で軽くネジをしめた後、付属のドライバーでネジをしっかりとめます。

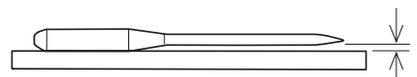


注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけしないでください。故障の原因となります。

⚠注意：ケガ防止のために；

- 針は、家庭用ミシン針（HA × 1）とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

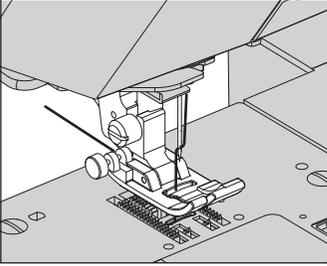


ぬってみましょう

電源を入れると、直線ぬい () が選ばれます。

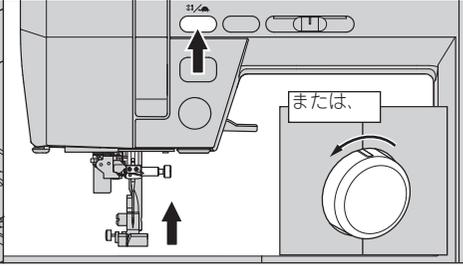
■ ぬい始め～ぬい終わり

1 押えを確かめます。
(シグザグ押え)

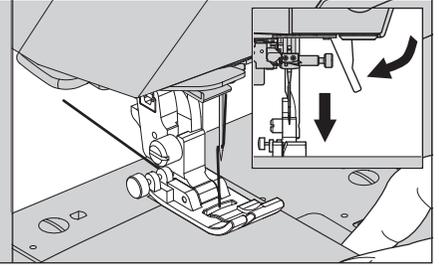


押えの取りかえ方は 22 ページ

2 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を
手前に回して、針を上上げます。



3 布地を入れ、押えを下げます。



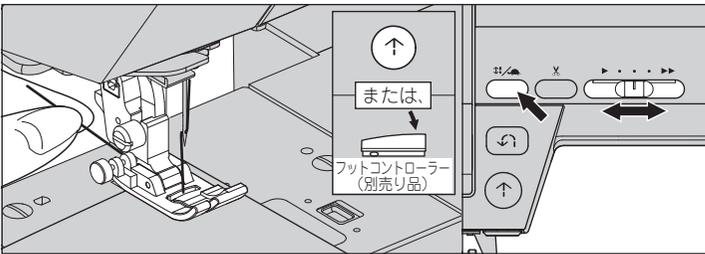
お知らせランプが緑色になります。

4 糸端を軽く後ろに持ちなが
ら、スタートさせます。

ぬいながらスピードを調節できます。また、
ぬいの途中で針上下/クイックスローボタン
を押すとゆっくりぬいになります。

! 注意：ケガ防止のために；

- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

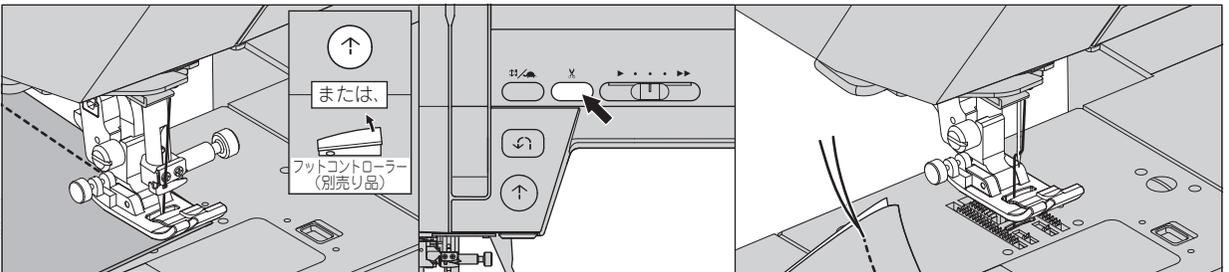


少しぬったら糸を放します。

5 終わりまで来たら、ストップ
します。

6 糸切りボタンを押し
ます。

7 押えを上げ、布を引き出します。



針停止位置の設定により、停止位置は異なります。

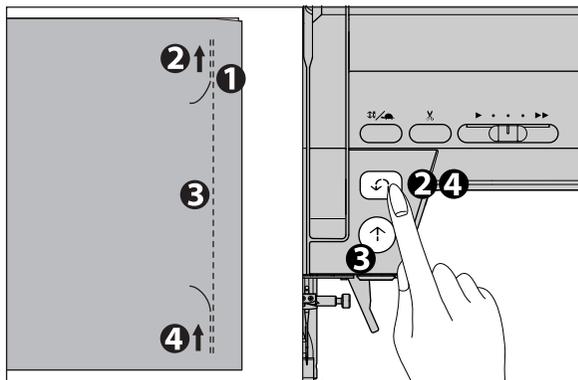
- 番手が 30 番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わずにミシン左側の面板糸切りにかけて切ってください。(27 ページ参照)
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

■ 返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを使って、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。返しぬいボタンを押している間、返しぬいをし、放すと止まります。

- ① 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
- ② 返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。
- ③ ぬいをスタートさせます。
- ④ 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。

模様 02 は、自動返しぬいの付いた直線ぬいです。(28 ページ参照)

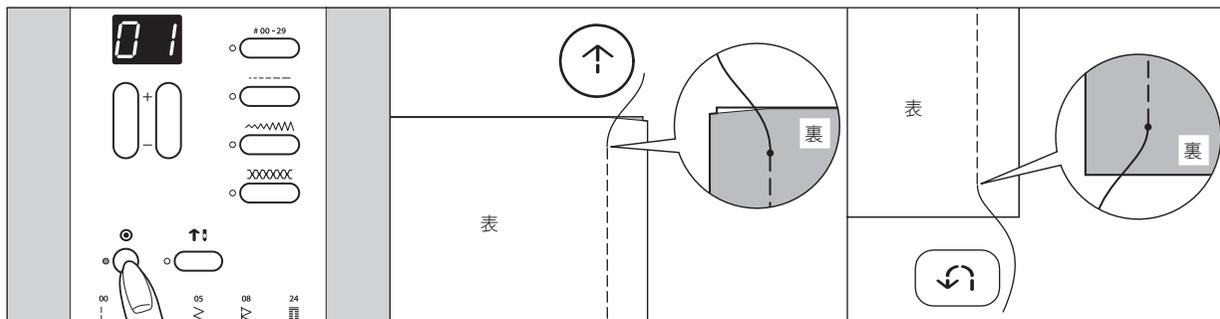


- 速度によっては、返しぬいボタンを押したあと、ぬい目長さの半分の長さをぬい進んでから返しぬいがぬわれます。

■ 自動止めぬい

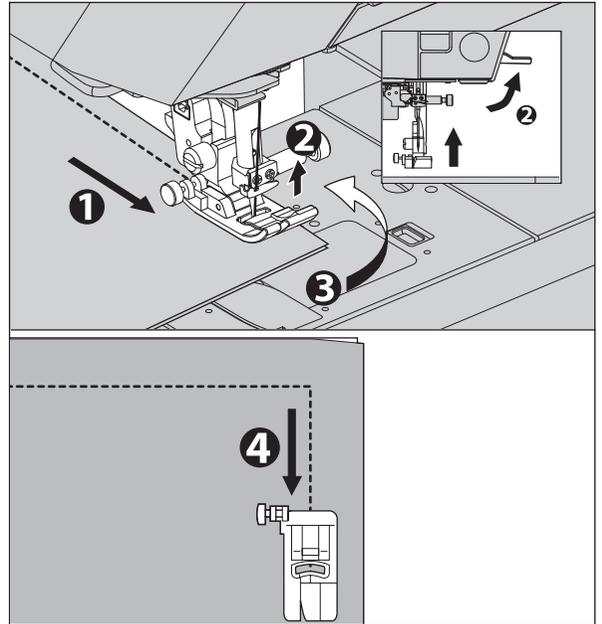
模様のぬい始めとぬい終わりに、自動的に止めぬいをします。

- ① 模様を選んだ後、止めぬいボタンを押します。
ライトが点灯します。
もう一度押すと取り消されます。
- ② ぬいをスタートさせます。
ミシンは止めぬいをしてからぬい始めます。
スタート・ストップボタンで中断できます。
- ③ ぬい終わりまで来たら、返しぬいボタンを1回押します。
ミシンは止めぬいをして自動的に停止します。



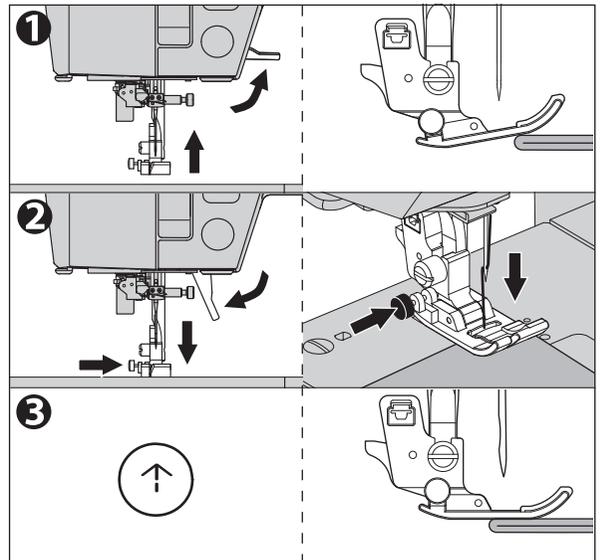
■ ぬい方向の変え方

- ❶ 布地の角まで来たら、ストップします。
針の停止位置が上のときは、針上下ボタンで針を下げます。
- ❷ 押えを上げます。
- ❸ 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ❹ 押えを下げて、続きをぬいます。

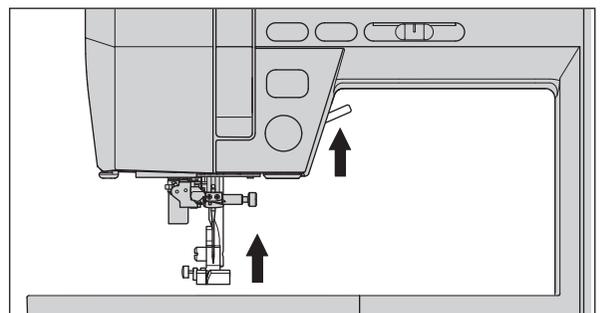


■ 厚地のぬい始め（段ぬい押えボタンの使い方）

- ❶ 厚地の布端からぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。
- ❷ ジグザグ押えの左側にある黒い段ぬい押えボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。
- ❸ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

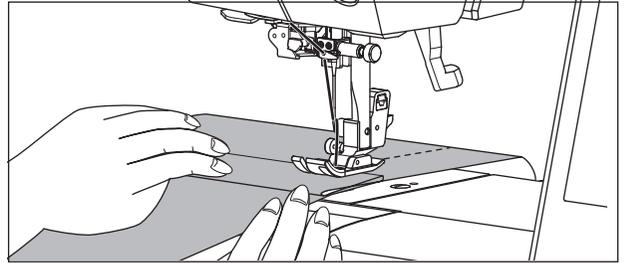


- 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



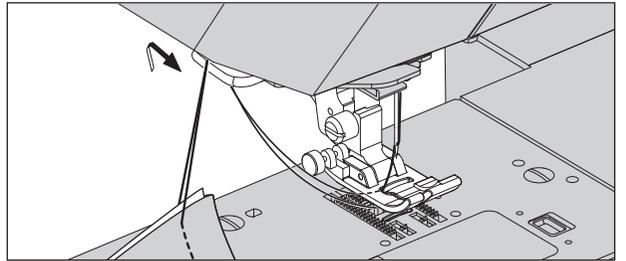
■ 段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



■ 糸切りボタンを使わないとき

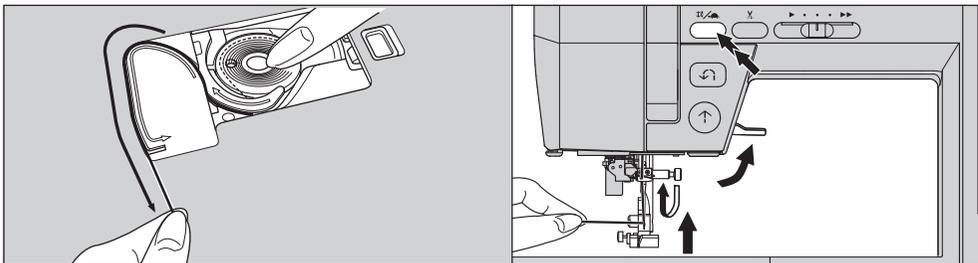
番手が 30 番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸を使っているとき、ぬい終わりの糸を長くとりたいときなどは、糸切りボタンを使わずに、針と押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の面板糸切りに糸を後ろから手前にかけて切ります。



■ 下糸を長くにとってぬい始めたいとき

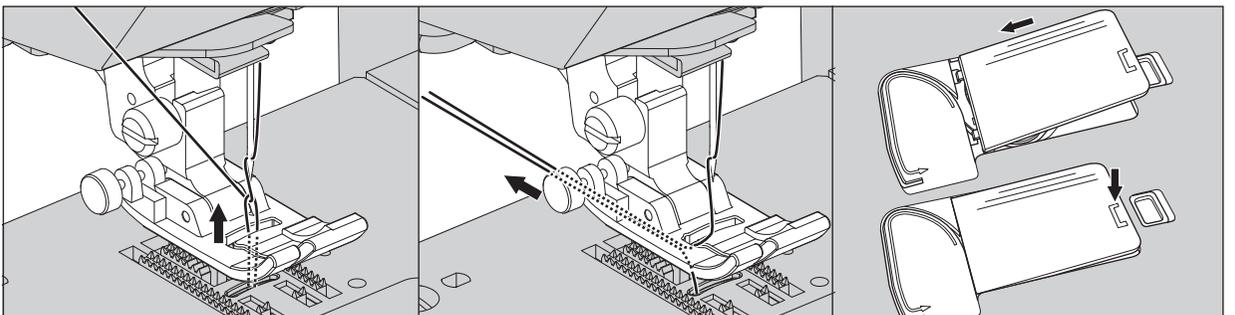
下糸を長くにとってぬい始めたいときは、次のようにして下糸を引き上げておきます。

- 1 18 ページの「ボビンのセット」を見ながらボビンを入れ、糸をミゾに通します。このとき、糸は切らないでください。
- 2 押えを上げ、上糸を軽く持ちながら、針上位置から針上下ボタンを 2 回続けて押します。



ハズミ車が手前に 1 回転します。

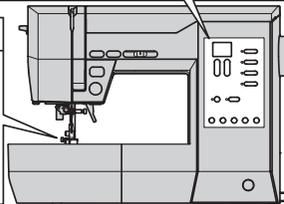
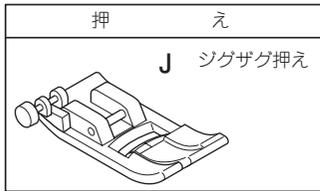
- 3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。
- 4 上糸と下糸をそろえて押えの下から 10 cm くらい後ろへ出しておきます。
- 5 ボビンカバーを取り付けます。(18 ページ参照)



直線ぬい

模	様	
00	01	02
—	—	—
○	○	○

00	—	直線ぬい (針位置: 左)
01	—	直線ぬい (針位置: 中)
02	≡	自動返しぬい付直線ぬい (針位置: 中)

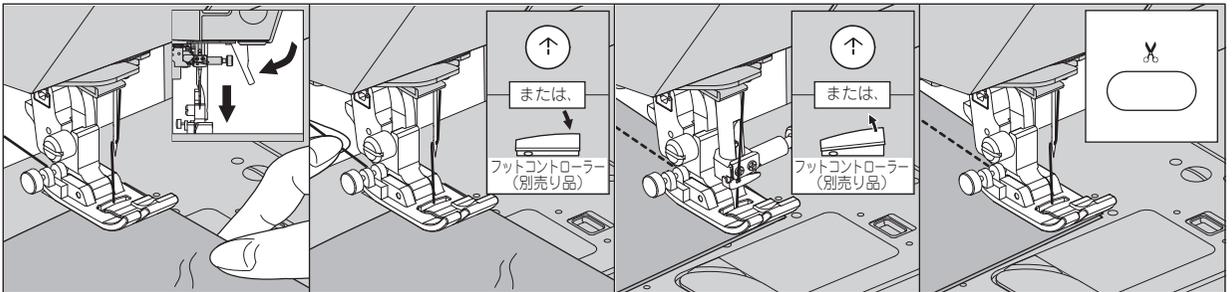


布地に合わせて、模様を選びます。

針位置: 左は端ぬいや薄物ぬいに適しています。

針位置は、ふり幅ボタンで変更されます。(15 ページ参照)

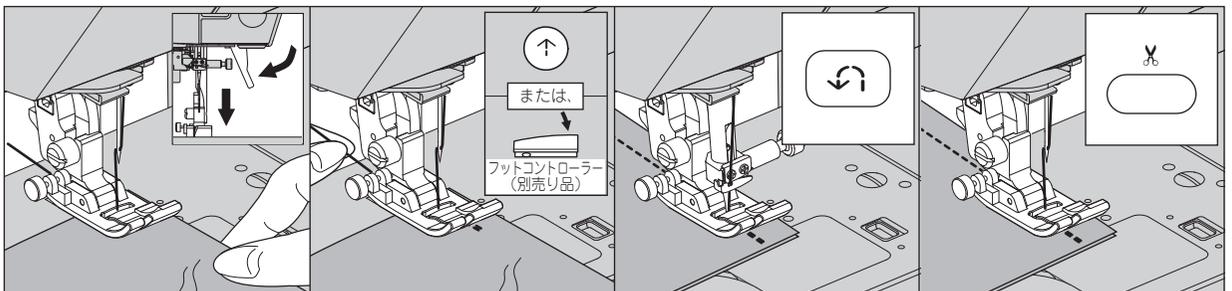
- 1 布を入れ、押えを下げます。
- 2 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタートさせます。
- 3 ぬい終わりまできたら、ストップさせます。
- 4 糸切りボタンを押します。



ぬっている間、手は布に軽くそえるようにします。

■ 自動返しぬい付直線ぬい (02)

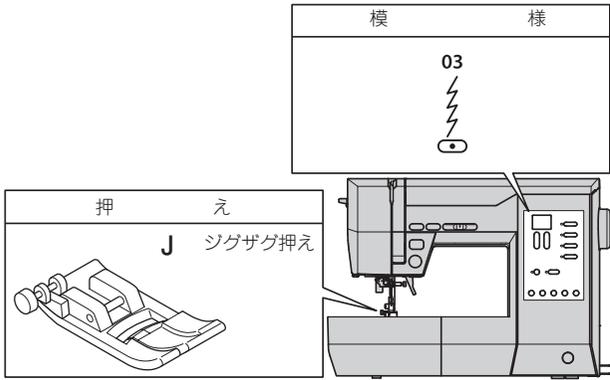
- 1 布を入れ、押えを下げます。
- 2 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタートさせます。
- 3 ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを1回押します。
- 4 糸切りボタンを押します。



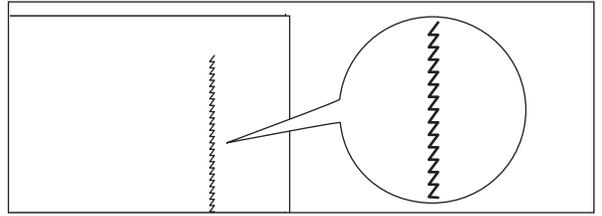
ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。ぬいを中断するには、スタート・ストップボタンを押します。(フットコントローラーの場合は、ペダルを放します)

ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

伸縮ぬい

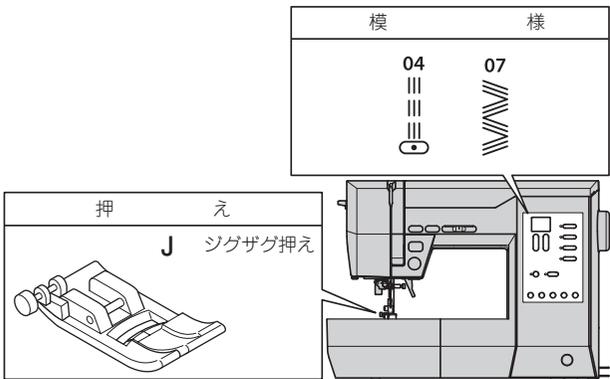


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

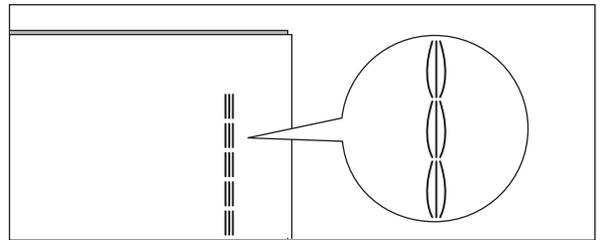


● 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

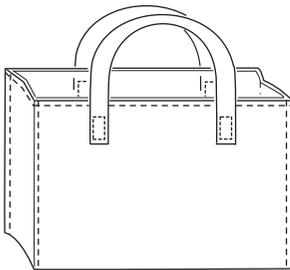
伸縮強化ぬい



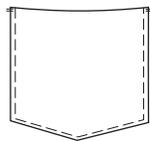
直線、ジグザグの3重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



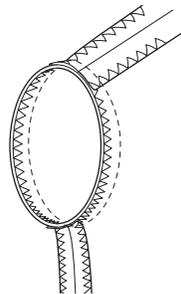
● バッグ



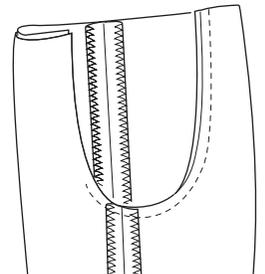
● ポケット



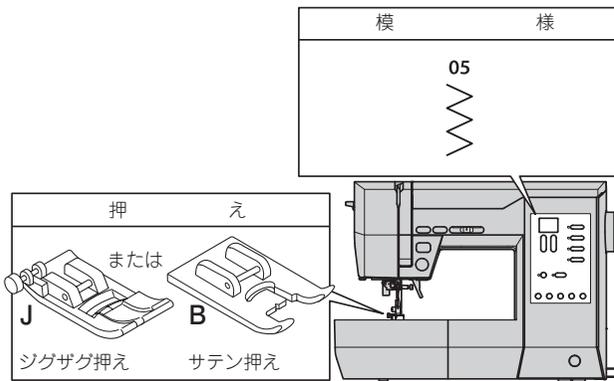
● そで付け



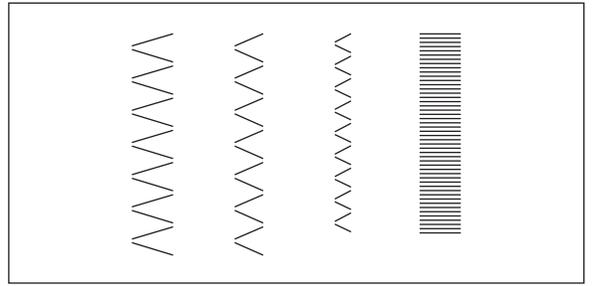
● ズボンの股ぐり



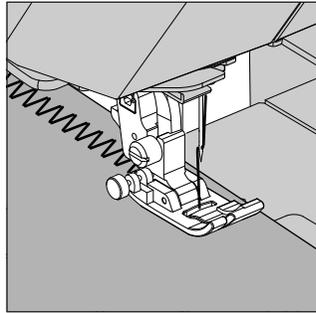
ジグザグぬい



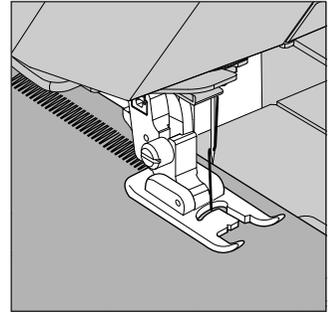
ぬい目長さ、ふり幅を調節していろいろな形のジグザグぬいができます。



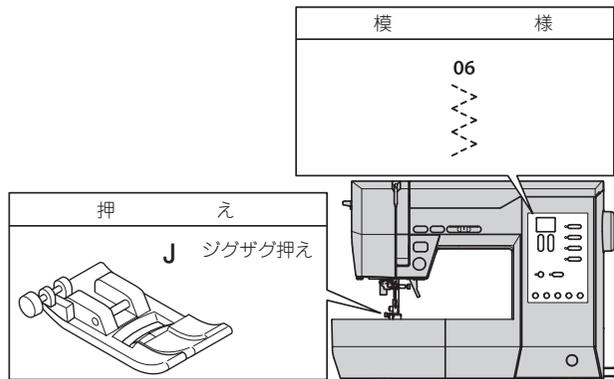
布地ののぎ合わせやふちかがりなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。ふちかがりぬいは、31 ページを参照ください。



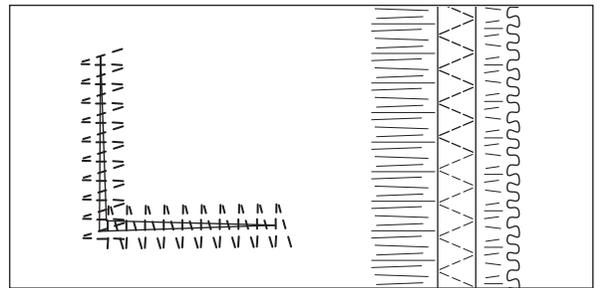
ぬい目長さをこまかくして密着ぬいをぬう場合には、サテン押えをお使いください。



つくろいぬい (点線ジグザグぬい)

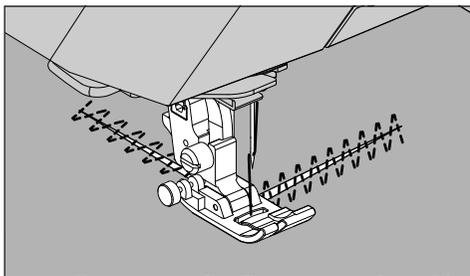


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。



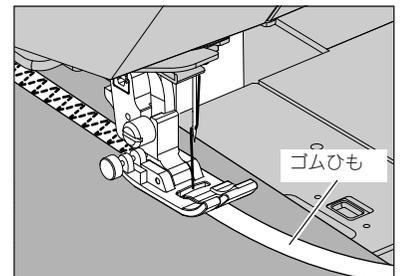
●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。

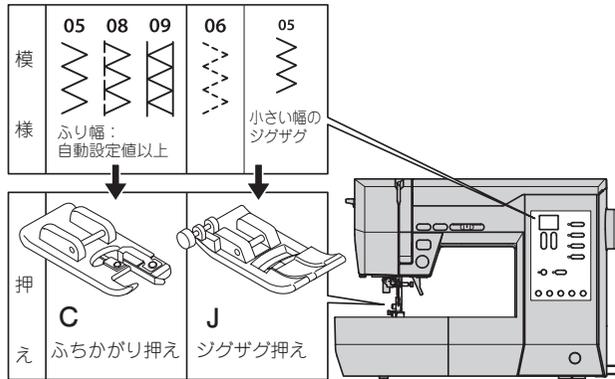


●ゴムひも付け

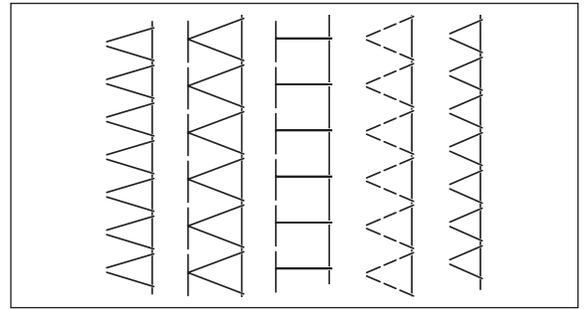
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。



ふちかがりぬい (たち目かがり)

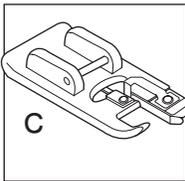


あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

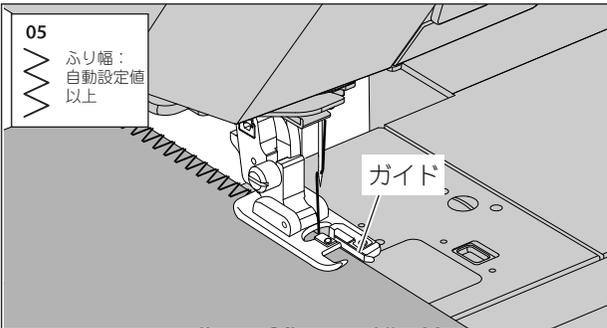


⚠️ 注意：ケガ防止のために；

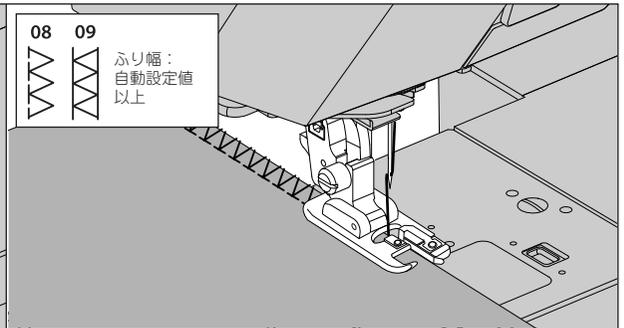
ふちかがり押えは、必ず模様 05、08、09 に合わせ、ふり幅を自動設定値以上にお使いください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様では針が押えにあたり危険です。



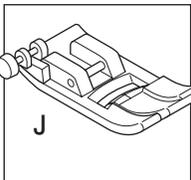
ふちかがり押えを使う場合：
布端を押えのガイドにあて、針が布端いっぱいになるようにしてぬいます。



たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

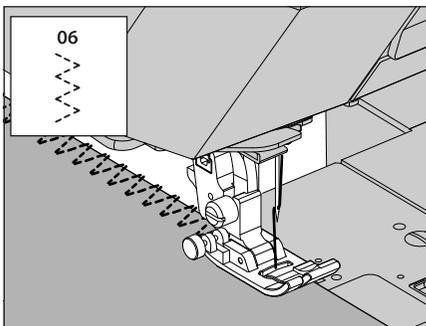


かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬい方です。ただし、タオル地や目の粗いニット地などをぬうときは、ジグザグ押えをお使いください。押えのツメが布にからむことがあります。

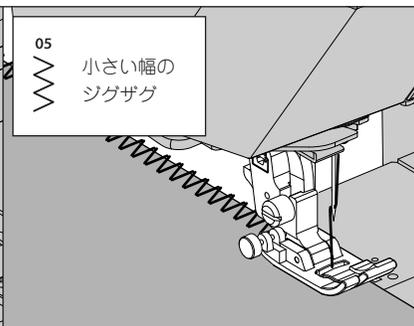


ジグザグ押えを使う場合：
針が布端ぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

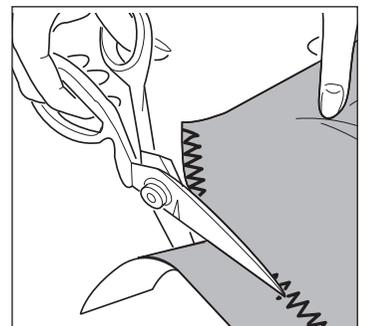
あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬい端を切り落とす方法もあります。



厚地、伸縮性のある布に利用します。



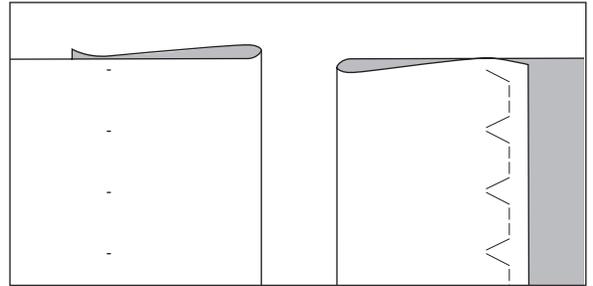
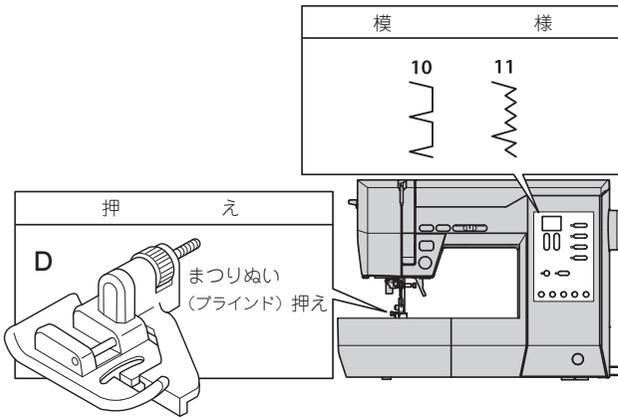
小さい幅のジグザグでかかるときに使います。



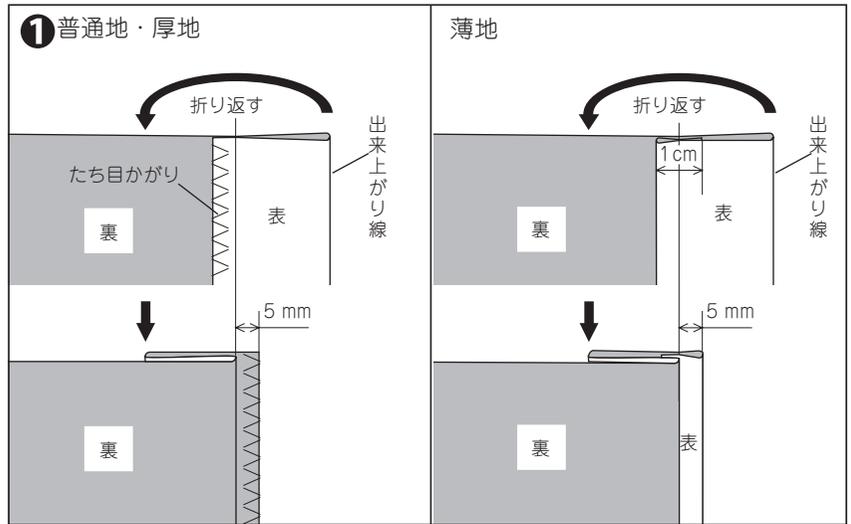
この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

まつりぬい (ブラインドステッチ)

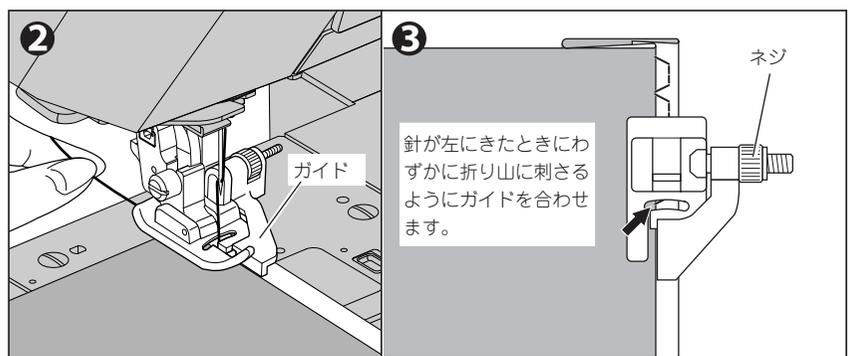
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。模様11は伸縮性のある布地に適しています。



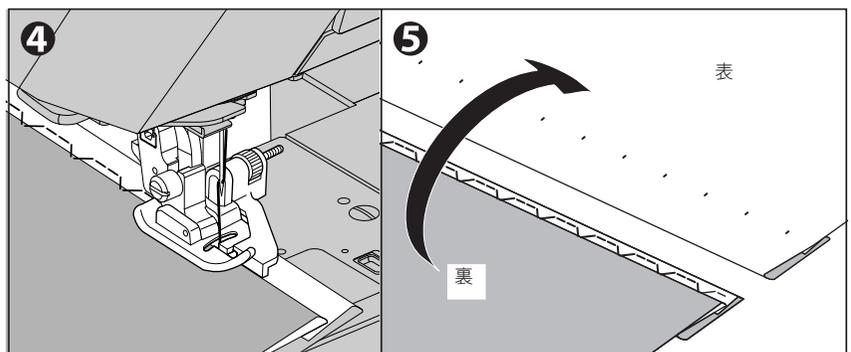
- ①** 布を出来上がり線で折り、のように布端が5 mm 出るように折り返します。薄地の場合、布端をあらかじめ1 cm中に折り込んでから、5 mm 出るように折り返します。ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



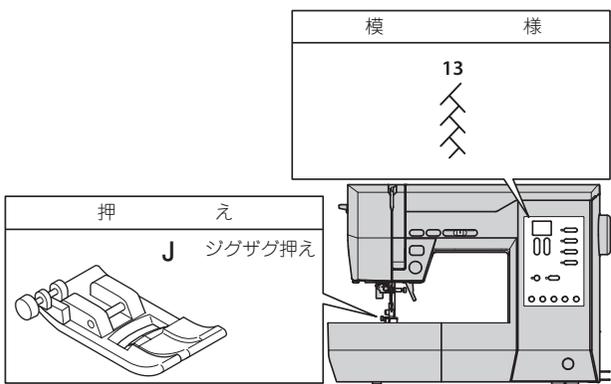
- ②** 折り山を押えのガイドにあてます。
③ 針が最も左側に来たときに折り山にわずかに刺さるようにガイドの位置を調節します。ネジを手前に回すとガイドは右に、向こう側に回すとガイドは左に移動します。
 ● 針上位置で模様を選ぶと、針は最も左側にくるようになっていません。



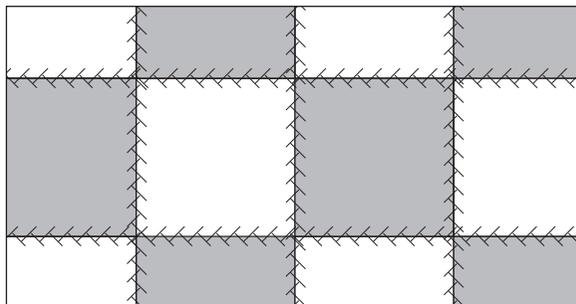
- ④** 折り山をガイドにあてながらぬいます。
⑤ ぬい終わったら、布を返します。



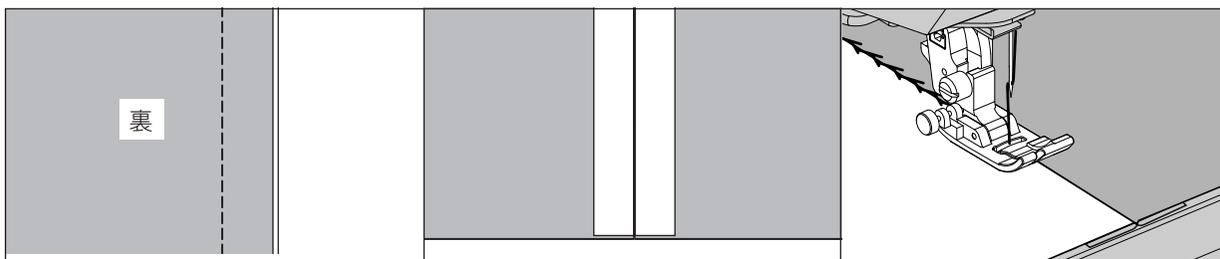
パッチワーク



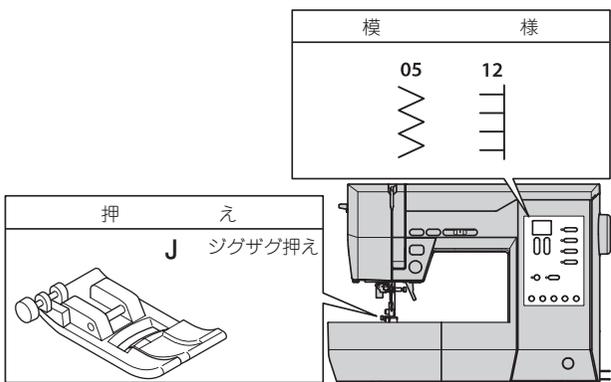
いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



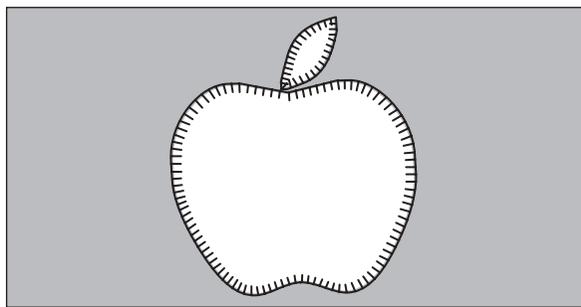
- 1 2枚の布地を中表に合わせ地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわります。
- 3 両方の布地に模様がまたがるようにしてぬいます。



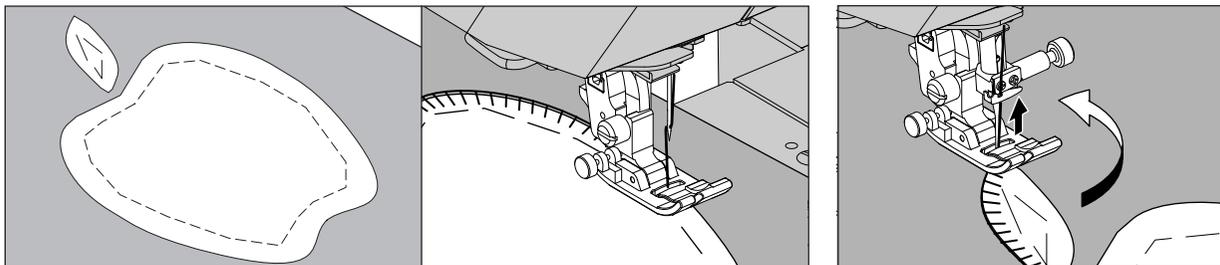
アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。



- 1 アップリケ布を止めます。
- 2 アップリケの布端をたち目かがりと同じ要領でぬい付けます。
- 急な角度をぬう場合
布端に針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。



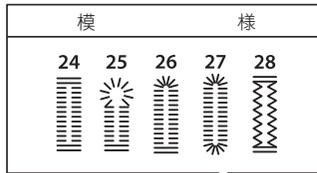
のりづけまたはしつけをします。

カーブの強いものは、ふり幅を小さくします。

ボタンホールぬい

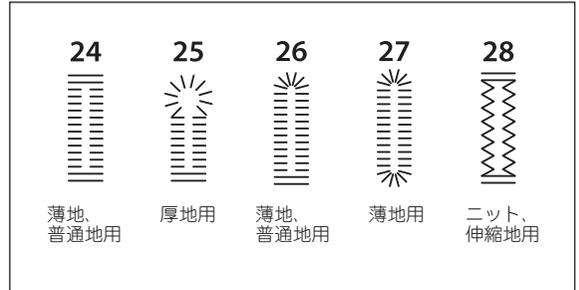
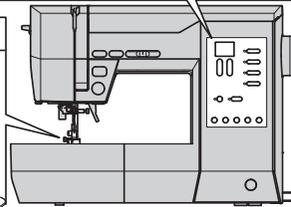
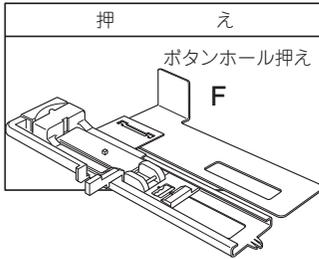
●お知らせ

必ず実際にぬう布地と同じ布地で試しぬいをして、仕上がりを確認してください。

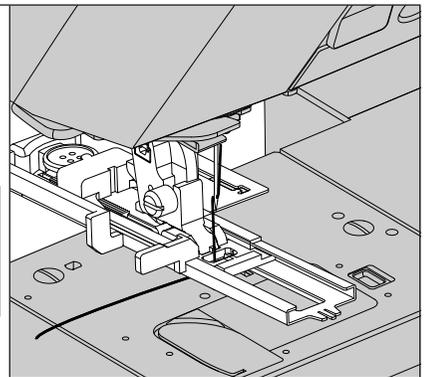
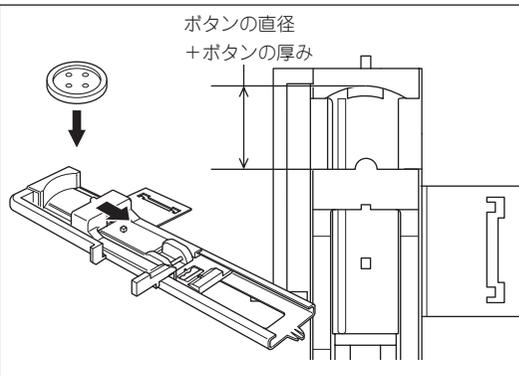
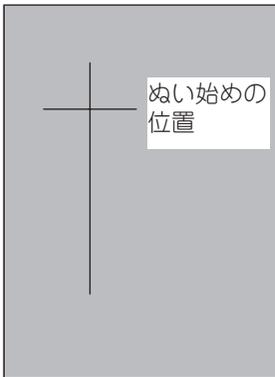


5種類のボタンホールをそれぞれワンタッチでぬうことができます。

ふり幅を調整することでボタンホールの幅を変更できます。3段階で調整できます。



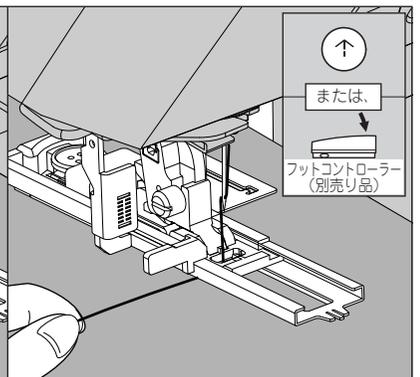
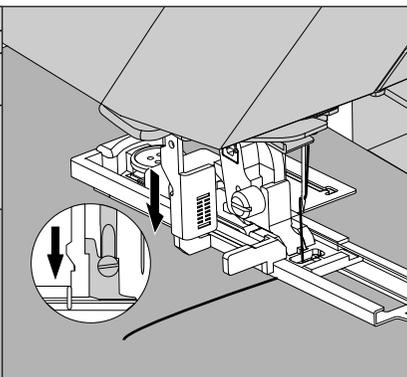
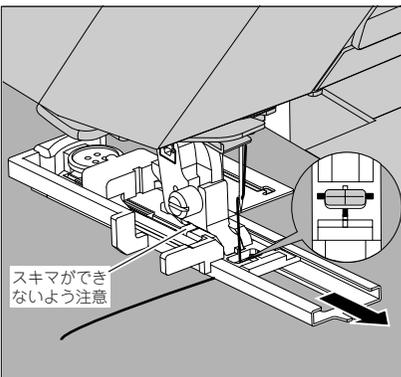
- 1 布地のボタンホールをぬう位置に印を付けます。
- 2 ボタンを押えの台にセットします。
- 3 上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。



● 台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径+ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

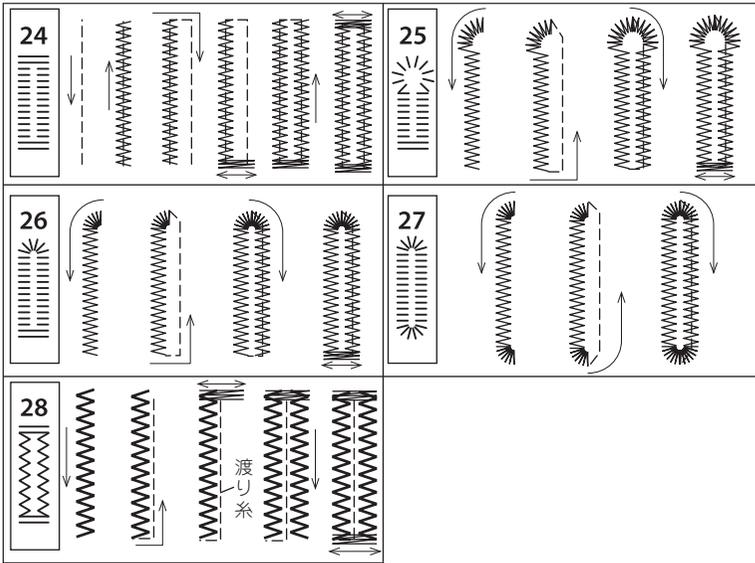
- 4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。
- 5 ボタンホールレバーをいっぱい下げます。
- 6 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。



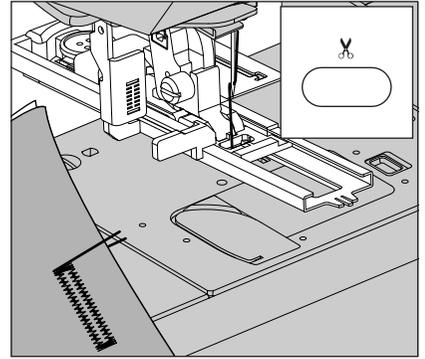
押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

ご注意: ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、2~3針止まります。

- 7** 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。
ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

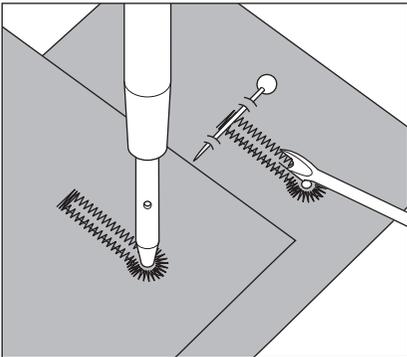


- 8** 糸切りボタンを押します。
押えを上げて、布を外します。



ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて
押えの枠を一番手前に戻してください。

- 9** シームリッパーでボタン穴を切り
開きます。



ぬい糸を切らないように注意してください。
かん止めのところにまち針を刺しておく、切り過ぎがありません。
模様 25 のキーホールには、はと目穴パンチ（市販品）で穴をあけてから
シームリッパーで切り開くときれいに仕上がります。
模様 28 は、中央の糸（渡り糸）を切って取り除きます。
穴を開けるときは、下に厚紙などをしってください。

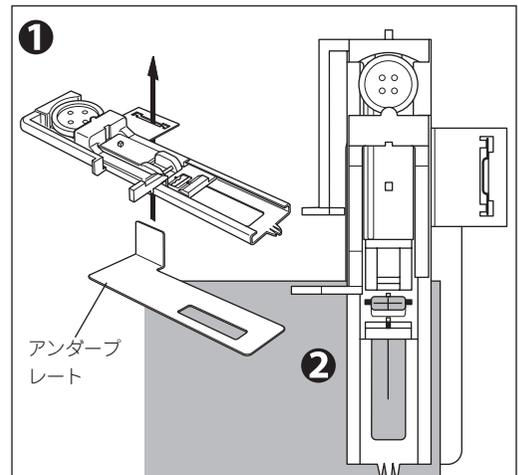
⚠ 注意：ケガ防止のために；

シームリッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に
手や指を置かないでください。すべったときケガを
する恐れがあります。

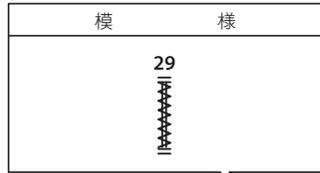
●アンダープレートの使い方

薄地や送りにくい布、布端などのぬいにくい部分のボタンホールには、アンダープレートを使います。

1. アンダープレートを押えの下から差し込んだまま、押えホルダーに取り付けます。
2. 布を押えの枠とアンダープレートの間に入れてぬいます。

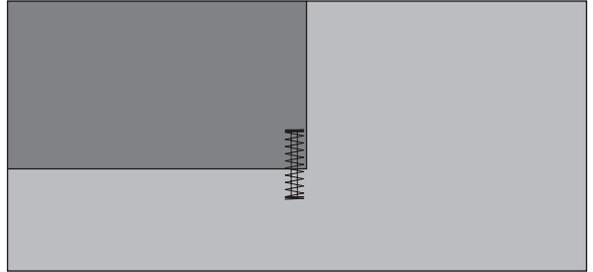
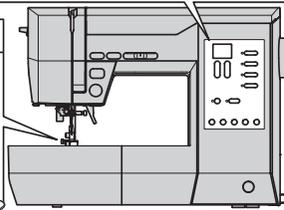
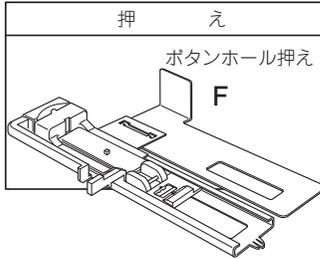


かん止め

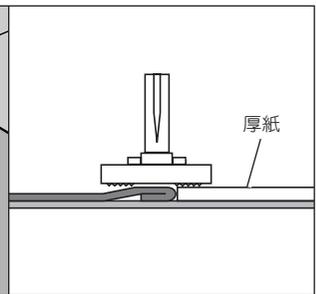
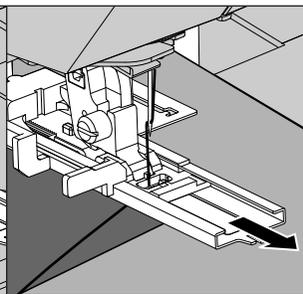
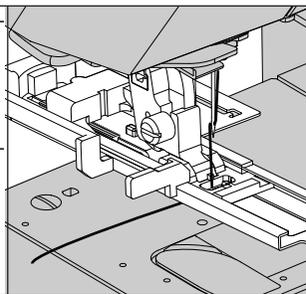
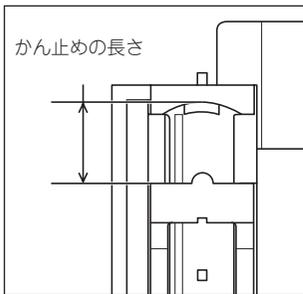


ポケット口やベルト通しなどが加わりやすいところを補強します。

かん止め（模様 29）のぬい目のふり幅は5段階、長さは8段階で変更できます。



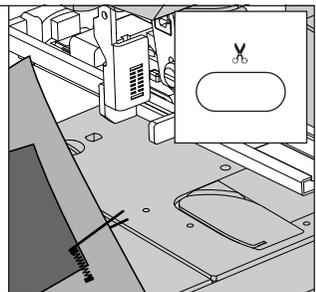
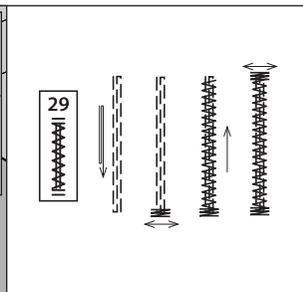
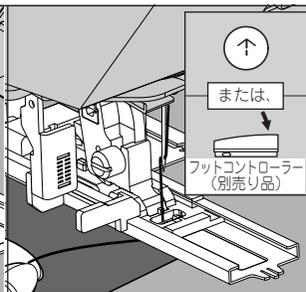
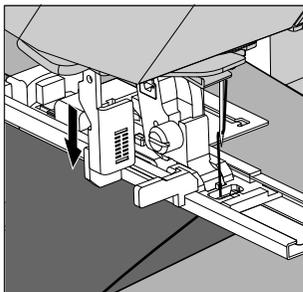
- ① ぬいたいかん止めの長さの分だけ、押えの台をスライドさせます。
- ② 上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。
- ③ ぬい始めの位置が向こう側になるように、布を押えの下にセットして、押えを下げます。
- 厚い布のポケット口のかん止めをぬうには、厚紙をポケットの横にそえるのとぬいやすくなります。



下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

- ④ ボタンホールレバーをいっぱい下げます。
- ⑤ 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。
- ⑥ 図の順序でかん止めがぬわれていきます。
- ⑦ 糸切りボタンを押します。押えを上げて布を出します。

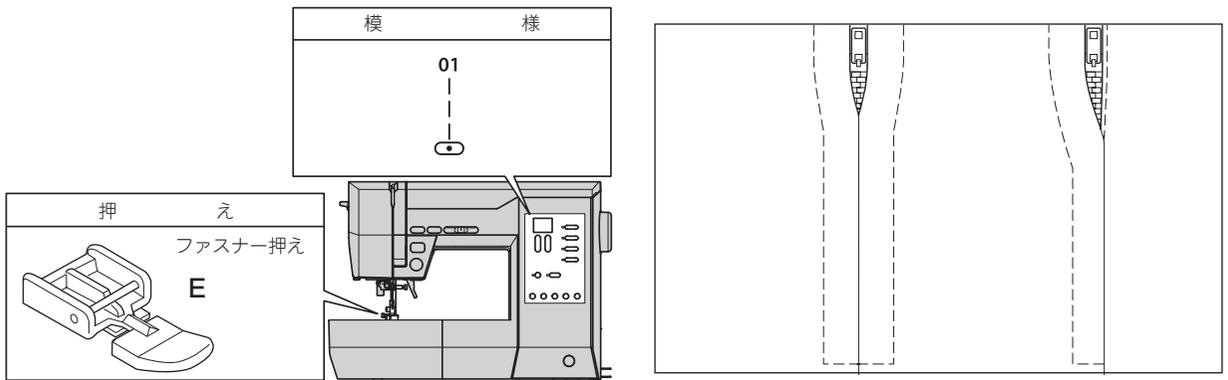


ご注意：ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、2～3針ぬって止まります。

ぬい終わると自動的に止めぬいを止めます。

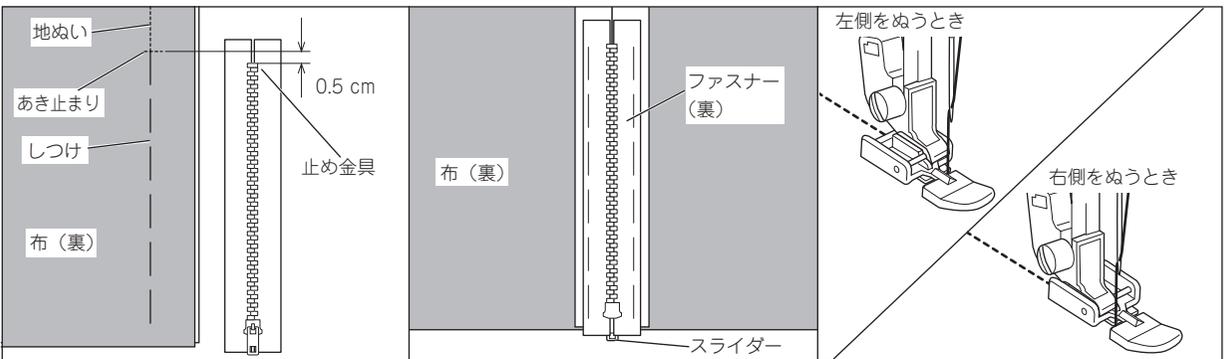
かん止めをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番手前に戻してください。

ファスナー付け (つき合わせ・脇あき)



■ つき合わせ

- 1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。
- 3 ファスナー押えを取り付けます。

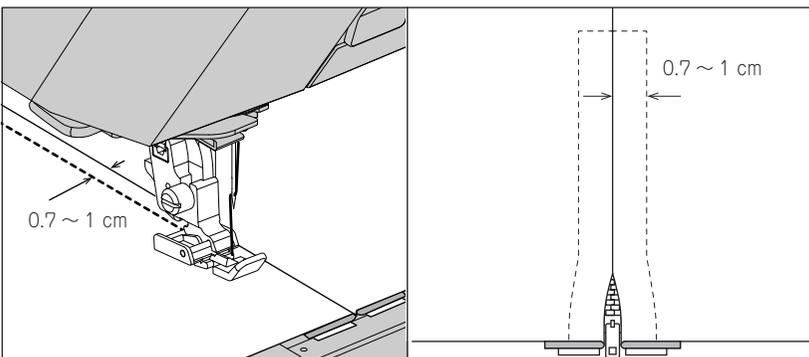


あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミソを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミソをホルダーに入れます。

- 4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- 5 あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



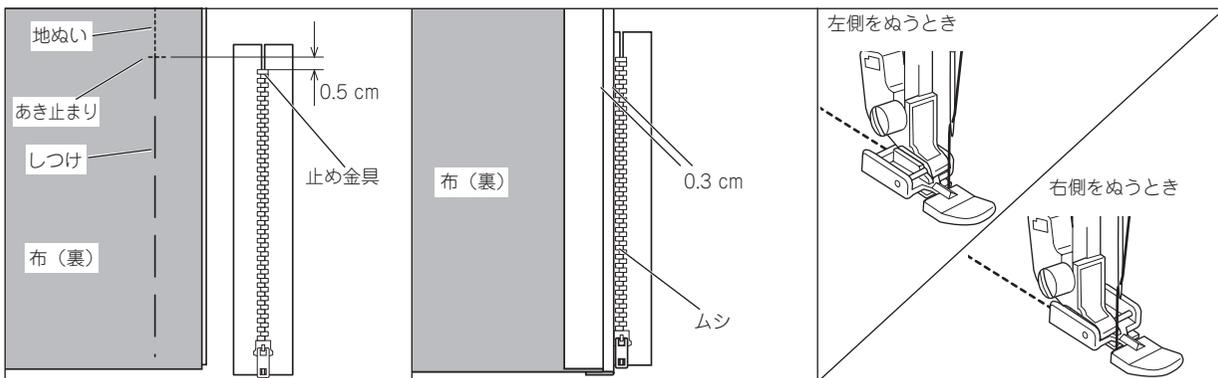
布の合わせ目から0.7 ~ 1 cm 離してぬいます。

右側も同様に0.7 ~ 1 cm 離してぬいます。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えを使用するときは、必ず模様01()を選び、針位置は自動設定値から変えないでください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたり危険です。

脇あき

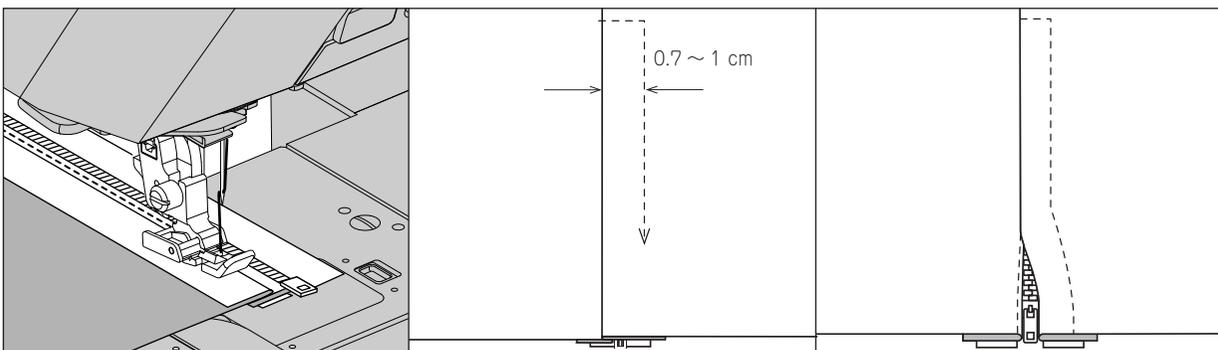
- 1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を 0.3 cm 出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。
- 3 ファスナー押えを取り付けます。



あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミソを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミソをホルダーに入れます。

- 4 ファスナーの左側をあき止まりりからぬいます。
- 5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。
- 6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

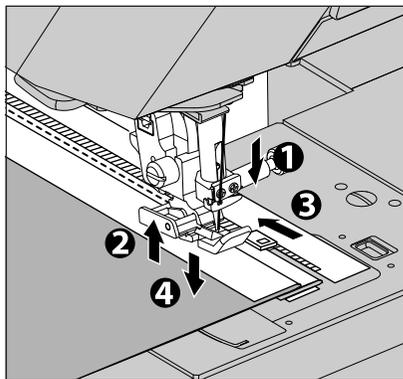


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

右側は、布の折り目から 0.7 ~ 1 cm 離してぬいます。

●スライダーをよけてぬうには：

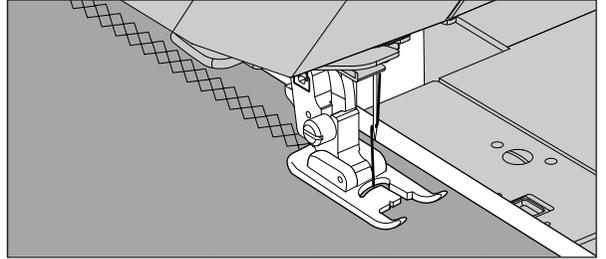
1. スライダーの手前でミシンを止めます。
針の停止位置が上のときは、針上下ボタンで針を下げます。
2. 押えを上げます。
3. スライダーを向こう側へ下ろします。
4. 押えを下げてぬい続けます。



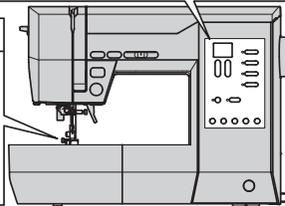
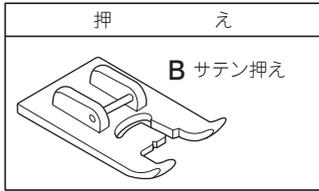
飾りぬい

模 様									
13	14	15	16	18	19	20	21	22	23

装飾的なぬいに用います。



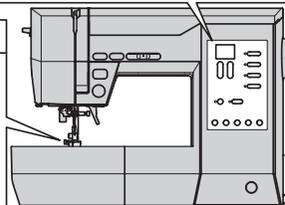
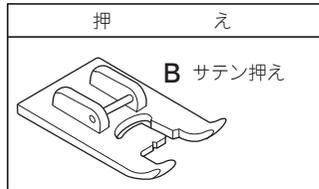
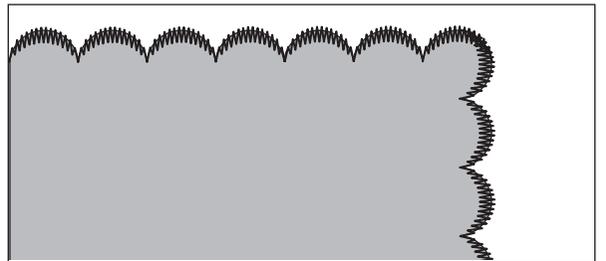
薄い布、伸縮性のある布には、下に紙を置いてぬってください。



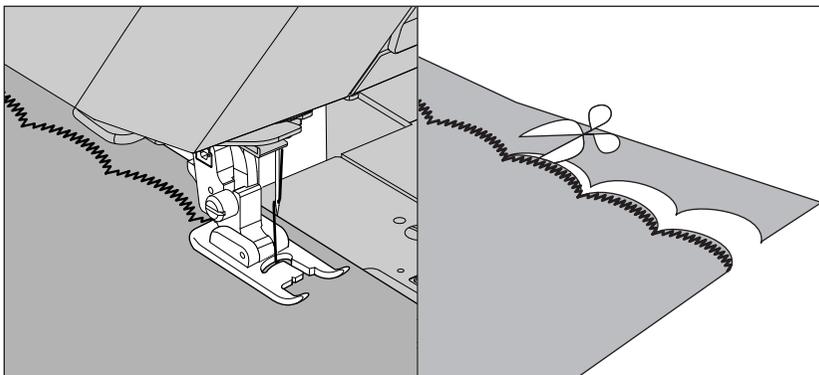
スカラップステッチ

模 様	
19	

テーブルクロスやブラウスのえりなどのふち飾りに使います。



- 1 布端に模様がかからないように端を残してぬいます。
- 2 糸を切らないように注意してぬい目にそって布を切ります。

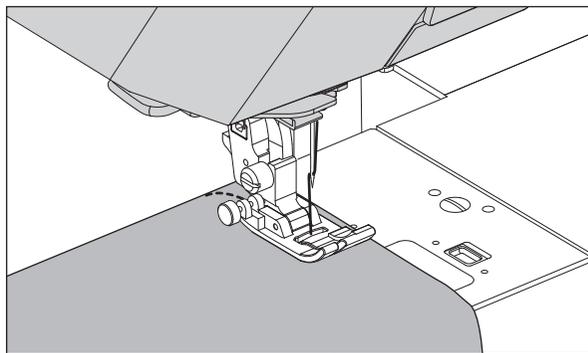


フリーアームぬい

補助テーブルを取り外すだけでフリーアームミシンになります。

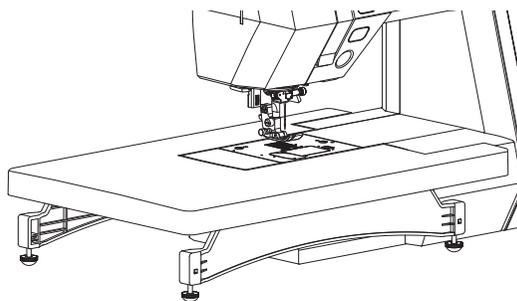
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

- 補助テーブルの取り外し方は9ページを参照ください。
- まつりぬいは32ページを参照ください。



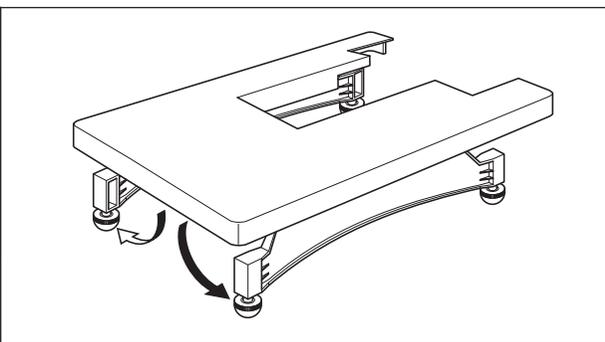
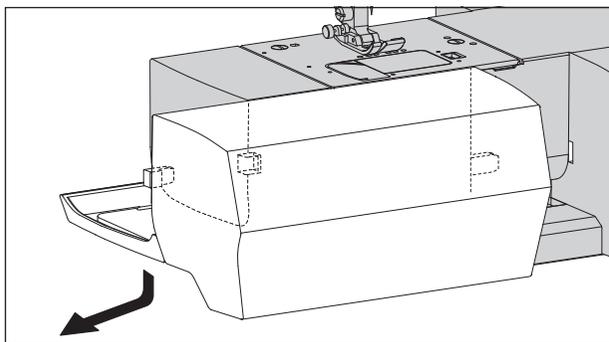
大型テーブルのご案内（別売り品）

カーテンなどの大きなものをぬうときに取り付けます。



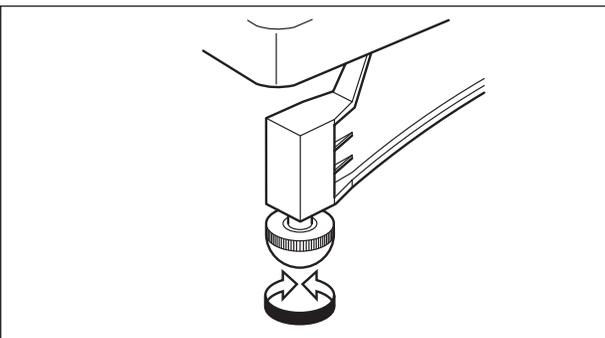
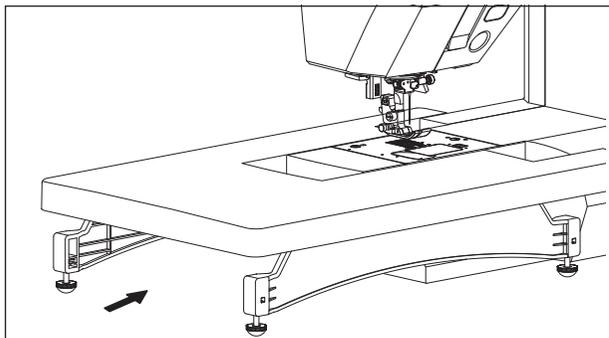
1 補助テーブルを取り外します。（9ページ参照）

2 大型テーブルの脚を立てます。

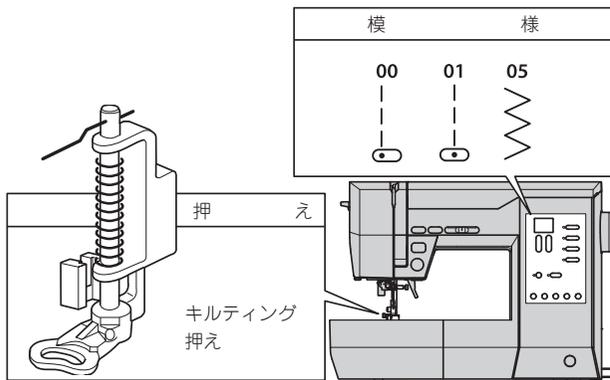


3 ミシンに左からすべり込ませます。

4 脚を回して、高さを調整します。



キルティング押えのご案内（別売り品）



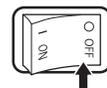
キルティング押えを使うと、布を手で操作して、ぬう方向を自由に変えられる曲線ぬいができます。キルティング押えを使うときには、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

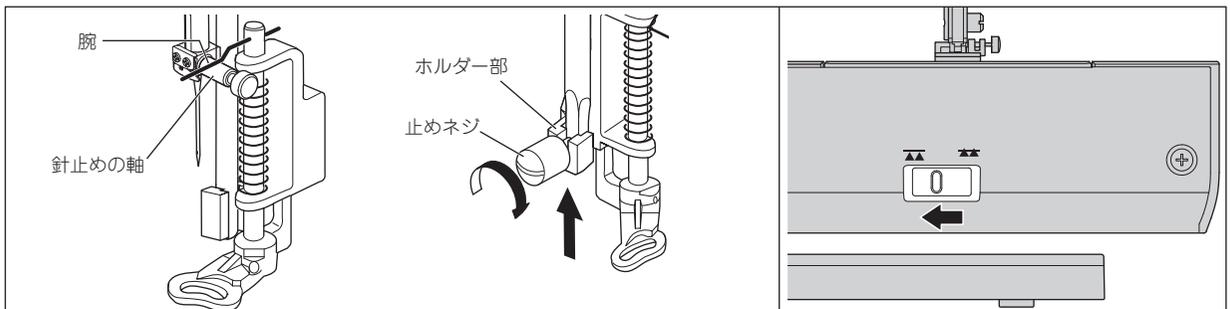
■ キルティング押えの取り付け方



注意：ケガ防止のために；
必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

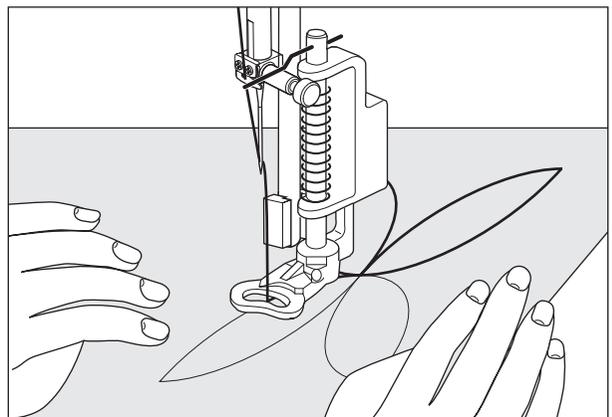


- 1 押えホルダーを取り外します。（22ページ参照）
- 2 押えの腕が、針止めの軸の上にくるように取り付け、押えのホルダー部を上を持ち上げながら、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。
- 3 ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。



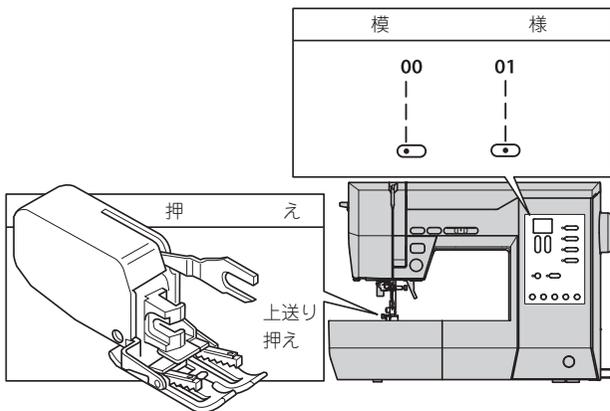
■ ぬい方（曲線ぬい）

- 1 布に模様を下書きします。
薄い紙に書いて、布にのせる方法もあります。（ぬい終わってから紙を取り除きます。）
- 2 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
押えは始めは浮いていますが、ぬい始めると針と一緒に上下に動き出します。
- 3 スピードをゆっくりにします。
- 4 下絵にそって布を動かしてぬいます。
このとき手が針に触れないよう、十分注意してください。



● ぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して送り歯を上げておいてください。

上送り押えのご案内（別売り品）



くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に、上送り押えを使うと2枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。次のような布地にお使いください。

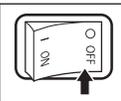
- 格子じまやしま地
- ピニール、レザーや、つやのある布地
- パイル地、けば立った布地
- ベルベットやとくにすべりやすい化繊地
- 長いぬい合わせに…

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

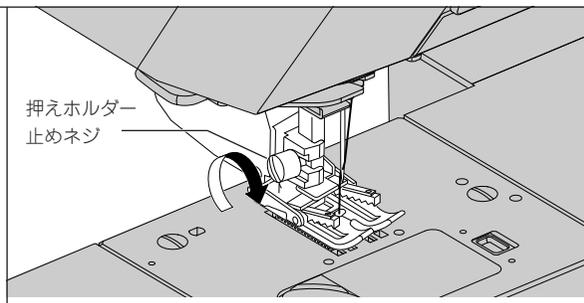
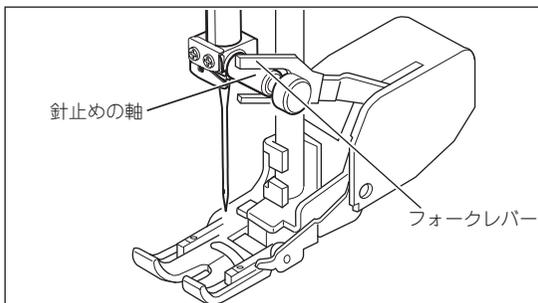
■ 上送り押えの取り付け方



注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



- 1 押えホルダーを取り外します。
(22 ページ参照)
- 2 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかけます。
- 3 押えのホルダー部を押え棒に後ろから取り付け、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。

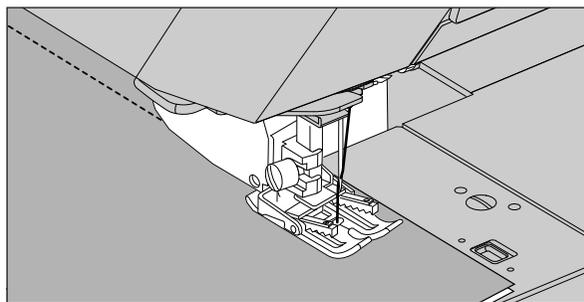


■ ぬい方

スピードをゆっくりにしてぬってください。



注意：ケガ防止のために；
上送り押えは、必ず上記の模様だけにお使いください。

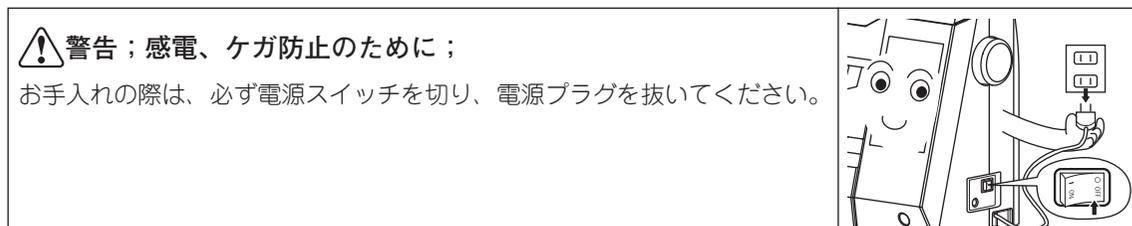


ミシンのお手入れ

糸くずやほこりがたまると、ぬい上がりを悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

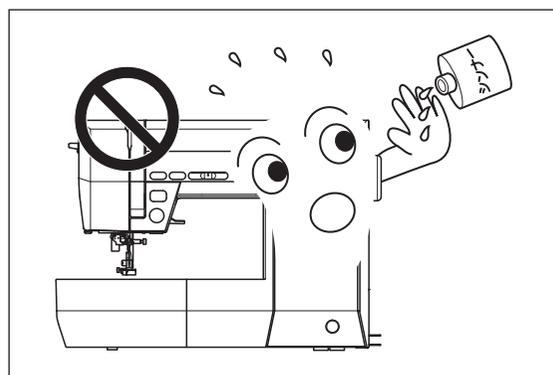
● お知らせ

このミシンのライトには、長寿命のLED ライトを使用しています。
もし、ライトが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。



■ ミシン表面、ミシンカバーの掃除

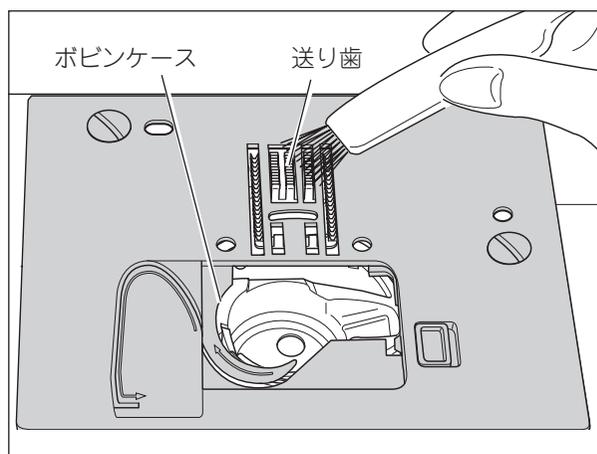
やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ ボビンケースの掃除

ボビンカバーとボビンを取り外し、ブラシなどで掃除してください。

- 外がまやボビンケースには、油をささないでください。



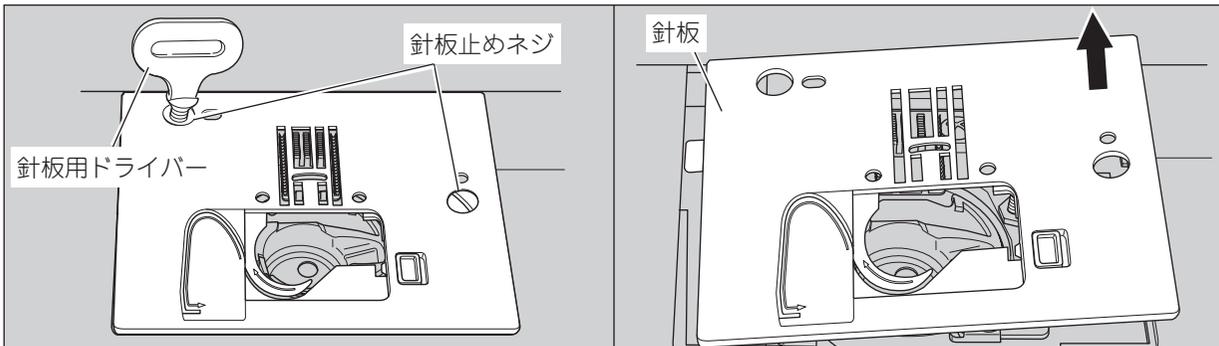
■ 外がまと送り歯の掃除

定期的に針板を外して、中の外がまや送り歯を掃除してください。

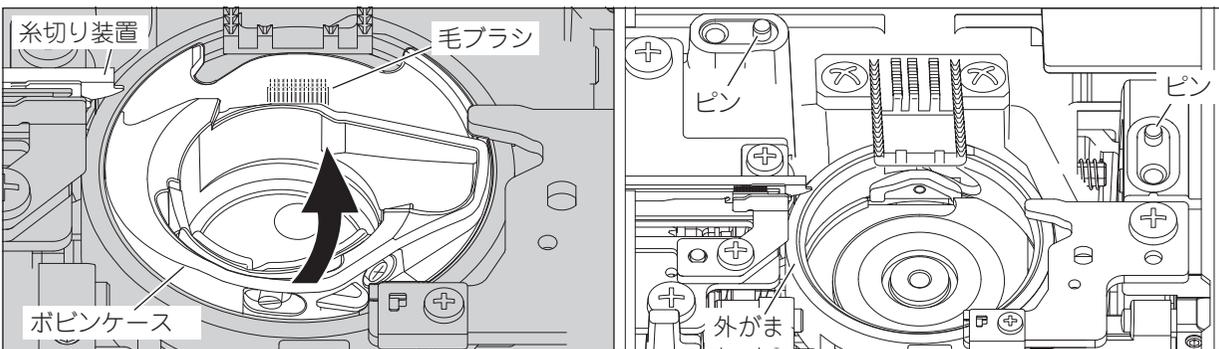
⚠ 注意：ケガ防止のために

針板を外すと、送り歯の左下に糸切り装置があります。この内部には糸を切るための鋭利な部品が使われています。安全のため、糸切り装置には、直接指で触らないでください。

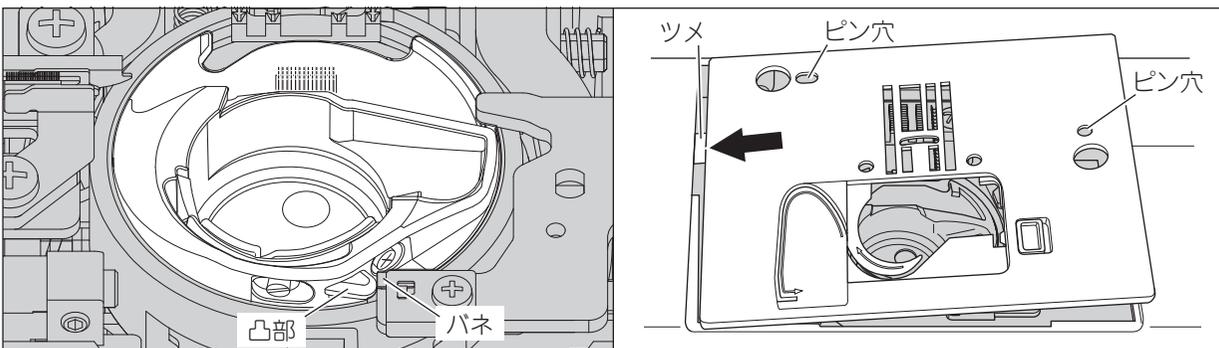
- 1 補助テーブル、針、押えホルダーを取り外します。
- 2 ボピンカバーとボピンを取り外します。
- 3 付属の針板用ドライバーで、針板止めネジ2本を外します。
- 4 針板の右側を持ち上げて、針板を取り外します。



- 5 ボピンケースの手前を上を持ち上げて取り出します。
 - 6 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボピンケースのよごれはかわいた布で軽くふき取ります。
- ⚠ 注意
- ・糸切り装置に触らないでください。
 - ・毛ブラシは取らないでください。



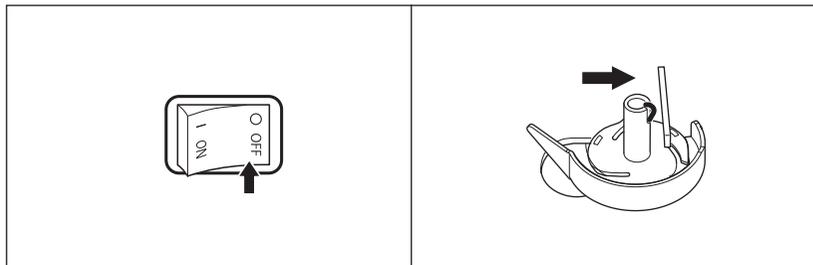
- 7 ボピンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボピンケースの凸部が回転止めのバネに当たるようにします。
- 8 針板左側のツメをミシン本体に差し込み、針板のピン穴をミシンのピン（⑥図参照）に合わせて取り付けます。針板止めネジを取り付けます。



LED ライトを消したり、操作音を鳴らなくするには _____

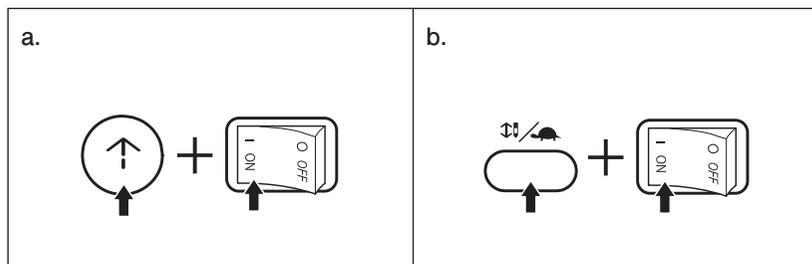
針もとを照らす LED ライトの ON/OFF や、ボタンを操作したときに鳴る「ピッ」という操作音の ON/OFF の設定を切り替えることができます。

- ①** 電源スイッチを切ります。 **②** 糸巻き軸を右に押しします。

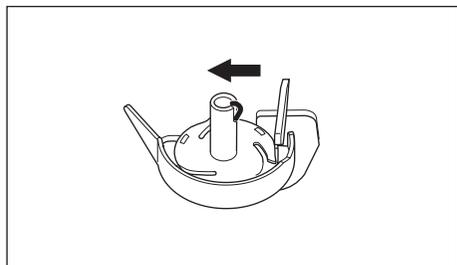


- ③** a. LED ライトの ON/OFF を切り替える
スタート・ストップボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。
b. 操作音の ON/OFF を切り替える
針上下/クイックスローボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。

●両方を同時に行いたいときは、両方のボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。



- ④** 糸巻き軸を左に戻します。



●電源スイッチを入れ直すと、通常の状態（LED ライト ON、操作音 ON）に戻ります。このとき、電源スイッチだけを押ししてください。

⚠ 注意：ケガ防止のために；

- 操作音を鳴らなくすると、誤った操作をしたときの警告音も鳴らなくなります。操作には十分注意してください。
- 電源スイッチを入れるときは、スタート・ストップボタン、針上下/クイックスローボタン以外のボタンは押さないでください。誤作動の原因となります。

こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	糸のかけ方が間違っている	正しくかけ直します	19
	ポビンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	44
	針の取り付け方が間違っている	正しく付け直します	23
	布地に対して糸が弱すぎる	布地と糸、針の関係を合わせます	23
下糸が切れる	ポビンのセットが間違っている	正しくセットし直します	18
	ポビンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	44
	外がまにゴミがたまっている	掃除します	45
ぬい目がとぶ	針の取り付け方が間違っている	正しく付け直します	23
	針が曲がっているか、先がつぶれている	針を取りかえます	23
	布地に対して糸と針が合っていない	布地と糸、針の関係を合わせます	23
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方が間違っている	正しくかけ直します	19
	ポビンのセットが間違っている	正しくセットし直します	18
	針の先がつぶれている	針を取りかえます	23
ぬい目に輪ができる	ポビンのセットが間違っている	正しくセットし直します	18
	糸のかけ方が間違っている	正しくかけ直します	19
模様がかくずれる	模様に対して押えが合っていない	模様に合った押えを取り付けます	28～
糸通しができない	針が上に上がっていない	針上下ボタンまたはハズミ車で針を上へ上げます	11, 20
	針の取り付け方が間違っている	正しく付け直します	23
	針が曲がっている	針を取りかえます	23
布地を送らない	ぬい目長さが布地に合っていない	ぬい目長さを調整します	15
	送り歯が下がっている	ドロップフィードレバーを右にして、送り歯を上げます	11
	送り歯にほこりがかたまっている	掃除します	45
針が折れる	布地を無理に引っ張っている	手は布地にそえるだけにします	24
	模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている）	模様に合った押えを取り付けます	28～
	針の取り付け方が間違っているか、しめ方がゆるい 布に対して針が細すぎる	正しく付け直します 布地と糸、針の関係を合わせます	23 23
回転が重く音が高い	外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板を外して掃除します	45
ミシンが動かない	電源プラグの差し込みが不十分である	しっかり差し込みます	10
	電源スイッチが入っていない	スイッチを入れます	10
	フットコントローラー（別売り品）が取り付けられている	フットコントローラーで操作するか、フットコントローラーを外します	10
●お知らせランプ …緑に点灯 …赤く点灯 …赤く点灯	糸巻き軸が右へ押されている	左へもどします	17
	押えが上がっている	押えを下げます	11
	ボタンホールぬい、かん止めぬいで： ・ ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ・ ボタンホール押えが取り付けられていない	・ きちんと下げます ・ ボタンホール押えを取り付けます	34, 36 34, 36

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（49 ページ参照）におたずねください。

エラーコード

ミシンが正しくない状態でスタートしようとしたときや、間違った操作をしたときには、警告音が鳴って表示画面にエラーコードが表示されます。必要な処置を行ってください。(操作音が鳴らないように設定した場合は鳴りません。詳しくは 46 ページの「LED ライトを消したり、操作音を鳴らなくするには」を参照してください)

エラーコード	原因	処置	参照ページ
	コンピュータのエラー	ミシン内部の糸巻きスイッチが故障しています。修理・サービスをお申し付けください	49
	糸切り動作のエラー	電源スイッチを切り、上糸と下糸をかけ直してください	10, 18, 19
	糸切り動作のエラー	電源スイッチを切り、上糸と下糸をかけ直してください	10, 18, 19
	スタート・ストップボタンを押したまま電源スイッチを入れた	スタート・ストップボタンを放してください	11
	返しぬいボタンを押したまま電源スイッチを入れた	返しぬいボタンを放してください	12
	針上下/クイックスローボタンを押したまま電源スイッチを入れた	針上下/クイックスローボタンを放してください	11
	糸切りボタンを押したまま電源スイッチを入れた	糸切りボタンを放してください	12
	フットコントローラ（別売り品）のペダルを踏んだまま電源スイッチを入れたが、ペダルを踏んでいる	ペダルを放してください	10

仕様

定格電圧	100 V
消費電力	45 W
周波数	50Hz/60Hz
ライト	白色 LED
寸法	幅：427 mm × 高さ：300 mm × 奥行き：196 mm
重量	8.0 kg

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

170年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越してください。

株式会社ハッピージャパン

〔シンガーミシンお客様相談係〕

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

TEL: 03-3837-1862 FAX: 03-3837-0072

受付時間：平日 9:00～12:00、13:00～17:00

（土・日・祝日および株式会社ハッピージャパンの休日を除く）

* 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。

* シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」におたずねください。

●無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から1カ年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン本体のみとし、ケース、針及び電球など消耗品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 無料修理保証をお受けいただくときは、ミシンを購入店へご持参またはご相談ください。

●無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または輸送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

●有料修理について

1. 上記の1.～10.に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

●お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「使用の手びき」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®

シンガーミシン

保 証 書

機械本体がお客様の正常な使用状態で万一故障した場合は、裏面記載の内容で無料修理を保証します。

型 式	SSX-500	機 械 番 号	
* お買上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買上げ日より本体 1 年
* お客様	ご 住 所	〒 _____ TEL: _____	
	フリガナ ご 芳 名	様	
* 販売店	住 所	〒 _____	
	店 名	⑩ TEL: _____	

* 印欄に記入のない場合無効となります。必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合には、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

株式会社ハッピージャパン

〒 110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL: 03-3837-1865

(本社) 〒 990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515

このミシンについてお気づきの点やお問い合わせ等がございましたら、下記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」までご連絡ください。

「シンガーミシンお客様相談係」

TEL: 03-3837-1862 FAX: 03-3837-0072
受付時間：平日 9:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝日および株式会社ハッピージャパンの休日を除く)

® は THE SINGER COMPANY の登録商標です。

37595 C2 SSX-500